

The University of Aizu
Center for Cultural Research and Studies
Annual Review No.29, 2022

会津大学文化研究センター
研 究 年 報

第29号
2022



会津大学

2023年3月発行

目次

	Page
巻頭言	
・ 前進 —2022 年度活動報告—	苅間澤 勇人 1
論文	
・ 2022 年度会津大学新入生の生活と意識に関する調査	蛭名 正司・沖 和砂 5
・ 2022 年度会津大学生の生活と意識に関する調査	沖 和砂・蛭名 正司 27
・ 割合の非加法性の理解を促進する教授法の検討 —ICT を活用した割合の数対生成・参照活動に注目して—	蛭名 正司 77
研究・教育・活動報告	
・ 網谷 祐一	93
・ 池本 淳一	94
・ 蛭名 正司	95
・ 小川 千里	96
・ 沖 和砂	97
・ 苅間澤 勇人	98
・ 小暮 克夫	99
・ 清野 正哉	100
・ 中澤 謙	101

【巻頭言】

前進 —2022 年度活動報告—

文化研究センター長 荻間澤勇人

2022 年度も新型コロナウイルスの影響が続きました。しかし、コロナ禍の感染対策が当たり前になり、新しい日常に慣れてきたように思います。文化研究センターに目を向けると、さまざまな業務が続き慌ただしい1年でした。本センターの1年を人事と研究に分けて振り返りたいと思います。

はじめに人事についてです。2022 年度も大きな人事がありました。

本センターの教官を1名増員することになり、3月から審査委員会を立ち上げて教官採用に向けて歩み出しました。学生に「ベンチャー企業論（日本語、英語）」などを提供したいと考えて、「経営学」の教官を公募しました。採用業務が順調に進み10月から小川千里先生をお迎えしました。

4月に沖和砂先生のテニユア審査委員会を立ち上げて、7月にプレゼンテーションによる審査がありました。研究や教育、学内貢献や地域貢献の活動が計画を上回っていることが確認されて「良好」との評価を得ました。プレゼンテーションの準備の際、昨年度に続き、本センター職員が集まって事前練習をしました。それがスマートなプレゼンテーションにつながったと思いました。なお、審査員から「文化研究センターの発展に向けてさらに力を発揮してほしい」とのコメントがありました。

10月から蛭名庄司先生が上級准教授になられました。本学に着任して4年となり、その間、教職課程を担当されながらアカデミック・スキルの担当者として本センターをまとめてくださいました。そういった成果が認められての昇進となりました。審査員から「教職課程の運営に期待する」とのコメントがありました。

つぎに研究についてです。4月に蛭名庄司先生と沖和砂先生が学内の競争的研究費に応募しました。これも本センターで事前練習をしました。いろいろな意見が出されて充実した練習となりました。プレゼンテーションの本番には本センターの教官も応援に行きました。その結果、両名の研究費が認められました。本学は研究大学を目指してクラスター制によるチーム型研究を行っています。2022 年度、蛭名先生と荻間澤が「スマート教育環境」のクラスターに参加しました。

最後になりましたが、年度末に清野先生が御勇退されました。本学では、ご専門の法学の他に「日本国憲法」「アカデミック・スキル」、そして「情報倫理」の授業をご担当くださいました。長年勤務のご勤務に心から感謝を申し上げます。御勇退後の生活についてお聞きしておりませんが、つぎのステージでのご活躍をご祈念いたします。

2023 年は本学開学 30 周年を迎えます。さまざまな祝福事業が進行すると思います。研究と教育、事業に文化研究センター一丸となって取り組み前進したいと思います。

研 究 論 文

2022 年度会津大学新入生の生活と意識に関する調査

蛭名 正司・沖 和砂

I. 問題と目的

本調査は、会津大学の教育・学生支援環境を点検・整備するための基礎資料を得るために、新入生の生活と意識、行動を分析することを目的としている。今回は、1998年、2000年、2002年、2004年、2006年、2008年、2010年、2012年、2014年、2016年、2018年、2020年に続く第13回目の調査である。

調査の主な関心は、会津大学の新入生が、会津大学へどのような過程で進学したか、学習面においてどのような意識・能力の特徴や経験を持った高校生だったのかを把握することである。

II. 方法

質問紙調査法を用い、大学主催の健康診断時（2022年4月）に調査用紙を配布・回収した。なお、回答は無記名である。対象者は、会津大新入生266名、有効回答数は、252名、回答率は、94.7%であった。

質問項目については、下記の通りである。

1. 基本的属性

1.1 年齢 1.2 性別 1.3 出身高校の所在地 1.4 出身高校の課程 1.5 出身高校の課程（その他記入）
1.6 入試区分 1.7 現在の住まい 1.8 主な通学方法

2. 会津大学への進学について

2.1 希望と評価 2.2 コンピュータ理工学部の専攻希望 2.3 受験決定時期
2.4 受検決定時期（その他記入）

3. 大学入学共通テストについて

3.1 理科 3.2 数学 3.3 外国語 3.4 地理歴史・公民 3.5 国語 3.6 その他

4. 高校時代の学習について

4.1 得意な科目 4.2 苦手な科目 4.3 高校時代に履修しなかった科目
4.4 会津大学受験時に考慮したこと 4.5 会津大学受験時に考慮したこと（その他記入）

5. 進路等について

5.1 希望進路 5.2 希望進路（その他記入） 5.3 コンピュータの知識 5.4 得意なこと・苦手なこと
5.5 勉強したいこと

6. PC等の使用状況等について

6.1 インターネット依存 6.2 情報端末の保有状況 6.3 自宅のネットワーク環境

7. 食生活について

7.1 摂取状況 7.2 欠食状況 7.3 就寝前の食事 7.4 食事のバランス 7.5 昼食内容

8. 生活について

8.1 不安や悩み 8.2 不安や悩みの内容 8.3 喫煙状況 8.4 飲酒状況 8.5 体重のコントロール
8.6 体力 8.7 受動喫煙の害 8.8 新型コロナウイルス感染症の心配 8.9 新型コロナウイルス感染対策

9. 学生相談室及び保健室について

9.1 相談する人の有無 9.2 学生相談室の存在認識 9.3 学生相談室の場所認識
9.4 学生相談室の利用希望 9.5 オンライン講座について 9.6 保健室の存在認識
9.7 保健室の場所認識 9.8 保健室の開室時間 9.9 体組成計による健康管理

Ⅲ. 調査結果

1. 基本的属性

本調査の対象は、会津大学新入生 266 名であり、回答率は、94.7% (252/266 名) であった。

1.1 年齢

新入生の平均年齢は、18.35±0.94 歳だった。

	平均値	標準偏差
Q1_1	18.35	.94

1.2 性別

回答者 252 名中、男性 223 名 (88.5%)、女性 26 名 (10.3%) であった。

		N	%
Q1_2	1男	223	88.5%
	2女	26	10.3%
	未記入/判別不可	3	1.2%

1.3 出身高校の所在地

新入生の出身高校の所在地は、福島県内が 90 名 (35.7%)、福島県外が 157 名 (62.3%) であった。

		N	%
Q1_3	1福島県内	90	35.7%
	2福島県外	157	62.3%
	未記入/判別不可	5	2.0%

1.4 出身高校の課程

出身高校の課程は、普通科が 202 名（80.2%）と最も多かった。

		N	%
Q1_4	1普通科	202	80.2%
	2専門学科	17	6.7%
	3その他	24	9.5%
	未記入／判別不可	9	3.6%

1.5 出身高校の課程（その他記入）

省略

1.6 入試区分

入試区分では、一般選抜 A が 130 名（51.6%）と最も多く、次いで学校推薦型選抜 A が 47 名（18.7%）、一般選抜 B が 45 名（17.9%）、学校推薦型 B が 21 名（8.3%）の順に多かった。

		N	%
Q1_6	1学校推薦型選抜A	47	18.7%
	2学校推薦型選抜B	21	8.3%
	3一般選抜A	130	51.6%
	4一般選抜B	45	17.9%
	未記入／判別不可	9	3.6%

1.7 現在の住まい

現在の住まいは、自宅外が 121 名（48.0%）と最も多く、次いで自宅が 84 名（33.3%）、創明寮が 42 名（16.7%）の順に多かった。

		N	%
Q1_7	1自宅	84	33.3%
	2創明寮	42	16.7%
	3自宅外（創明寮除く）	121	48.0%
	未記入／判別不可	5	2.0%

1.8 主な通学方法（1つ選択）

主な通学方法は、自転車が130名（51.6%）と半数以上を占めていた。次に、徒歩が87名（34.5%）と多かった。

		N	%
Q1_8	1徒歩	87	34.5%
	2自転車	130	51.6%
	3バイク	2	0.8%
	4自家用車	15	6.0%
	5バス	8	3.2%
	6鉄道	4	1.6%
	未記入／判別不可	6	2.4%

2. 会津大学への進学について

2.1 希望と評価

「会津大学への進学は、希望通りのことですか」という質問に対し、希望通りである学生は、215名（85.3%）であった。

		N	%
Q2_1	1おおいに希望通り	144	57.1%
	2どちらかといえば希望通り	71	28.2%
	3どちらともいえない	16	6.3%
	4どちらかといえば希望通りではない	14	5.6%
	5まったく希望通りではない	2	0.8%
	未記入／判別不可	5	2.0%

2.2 コンピュータ理工学部の専攻希望

「コンピュータ理工学を専攻することは、希望通りのことですか」という質問に対し、希望通りである学生は233名（88.5%）であった。

		N	%
Q2_2	1おおいに希望通り	189	75.0%
	2どちらかといえば希望通り	34	13.5%
	3どちらともいえない	11	4.4%
	4どちらかといえば希望通りではない	4	1.6%
	未記入／判別不可	14	5.6%

2.3 受験決定時期

「会津大学受験を決めたのはいつごろですか」という質問に対し、高校3年生の4月から11月の間（64名・25.4%）、高校3年生の1月（63名・25.0%）、高校1・2年生（61名・24.2%）の3つの時期に多くの学生が受験を決めていたことがわかった。

		N	%
Q2_3	1高校1・2年生	61	24.2%
	2高校3年生の4月から11月の間	64	25.4%
	3高校3年生の12月	23	9.1%
	4高校3年生の1月	63	25.0%
	5その他	23	9.1%
	未記入／判別不可	18	7.1%

2.4 受験決定時期（その他記入）

省略

3. 大学入学共通テストについて

大学入学共通テストで受験した教科について質問した（複数回答）。

3.1 理科

理科では、物理（186名・73.8%）と化学（157名・62.3%）を受験した学生が多いことがわかった。

		N	%
Q3_1_1	物理	186	73.8%
Q3_1_2	化学	157	62.3%
Q3_1_3	生物	13	5.2%
Q3_1_4	地学	4	1.6%
Q3_1_5	物理基礎	40	15.9%
Q3_1_6	化学基礎	38	15.1%
Q3_1_7	生物基礎	8	3.2%
Q3_1_8	地学基礎	3	1.2%

3.2 数学

数学では、数学Ⅰ・A（208名・82.5%）と数学Ⅱ・B（206名・81.7%）を受験した学生が多いことがわかった。

		N	%
Q3_2_1	数学Ⅰ	7	2.8%
Q3_2_2	数学Ⅰ・A	208	82.5%
Q3_2_3	数学Ⅱ	1	0.4%
Q3_2_4	数学Ⅱ・B	206	81.7%
Q3_2_5	簿記・会計	0	0%
Q3_2_6	情報関係基礎	1	0.4%

3.3 外国語

外国語は、英語以外の外国語を受験している学生はいなかった。

		N	%
Q3_3_1	英語	210	83.3%

3.4 地理歴史・公民

地理歴史・公民では、地理Bを受験した学生が110名（43.7%）と最も多かった。

		N	%
Q3_4_1	世界史A	1	0.4%
Q3_4_2	世界史B	8	3.2%
Q3_4_3	日本史A	2	0.8%
Q3_4_4	日本史B	13	5.2%
Q3_4_5	地理A	3	1.2%
Q3_4_6	地理B	110	43.7%
Q3_4_7	現代社会	37	14.7%
Q3_4_8	倫理	6	2.4%
Q3_4_9	政治・経済	10	4.0%
Q3_4_10	倫理、政治・経済	7	2.8%

3.5 国語

国語を受験した学生は、181名（71.8%）であった。

	N	%
Q3_5 国語	181	71.8%

3.6 その他

大学入学共通テストを受験していない学生は、16名（6.3%）であった。

	N	%
Q3_6_1 共通テストを受検していない	16	6.3%
未記入／判別不可	0	0.0%

4. 高校時代の学習について

4.1 得意な科目

「得意な科目は何でしたか。上位3つまで回答してください。」という質問に対し、数学（173名・68.7%）と英語（124名・49.2%）を得意と回答した学生が多かった。

	N	%
Q4_1_1 国語（古典・漢文除く）	61	24.2%
Q4_1_2 世界史	13	5.2%
Q4_1_3 日本史	6	2.4%
Q4_1_4 地理	28	11.1%
Q4_1_5 現代社会	17	6.7%
Q4_1_6 倫理	2	0.8%
Q4_1_7 政治・経済	3	1.2%
Q4_1_8 数学	173	68.7%
Q4_1_9 物理	89	35.3%
Q4_1_10 化学	35	13.9%
Q4_1_11 生物	7	2.8%
Q4_1_12 英語	124	49.2%
Q4_1_13 保健体育	29	11.5%
Q4_1_14 情報	51	20.2%

4.2 苦手な科目

「苦手な科目は何でしたか。上位 3 つまで回答してください。」という質問に対し、化学（125 名・49.6%）と国語（113 名・44.8%）が苦手と回答した学生が多かった。

		N	%
Q4_2_1	国語（古典・漢文を除く）	113	44.8%
Q4_2_2	世界史	45	17.9%
Q4_2_3	日本史	31	12.3%
Q4_2_4	地理	59	23.4%
Q4_2_5	現代社会	29	11.5%
Q4_2_5	倫理	6	2.4%
Q4_2_7	政治・経済	15	6.0%
Q4_2_8	数学	44	17.5%
Q4_2_9	物理	71	28.2%
Q4_2_10	化学	125	49.6%
Q4_2_11	生物	16	6.3%
Q4_2_12	英語	69	27.4%
Q4_2_13	保健体育理論	26	10.3%
Q4_2_14	情報	4	1.6%

4.3 高校時代に履修しなかった科目

高校時代に履修しなかった科目は、物理（39 名・15.5%）が最も多く、次いで数学Ⅲ（29 名・11.5%）、数学 B（10 名・4.0%）の順に多かった。

		N	%
Q4_3_1	数学I	1	0.4%
Q4_3_2	数学A	1	0.4%
Q4_3_3	数学II	2	0.8%
Q4_3_4	数学B	10	4.0%
Q4_3_5	数学Ⅲ	29	11.5%
Q4_3_6	物理	39	15.5%

4.4 会津大学受験時に考慮したこと

会津大学受験時に考慮したことについて、1.とても考えに入れた、2.どちらかといえば考えに入れた、3.どちらともいえない、4.どちらかといえば考えに入れなかった、5.まったく考えに入れなかったで回答を求めたところ、最も考慮したことは、“自分の興味関心”であった。

	平均	標準偏差
Q4_4_1学校の成績	2.95	1.57
Q4_4_2模試の成績	2.88	1.47
Q4_4_3自分の成績のよい科目	2.64	1.50
Q4_4_4自分の成績の悪い科目	2.74	1.42
Q4_4_5自分の好きな科目	2.63	1.49
Q4_4_6自分の嫌いな科目	2.96	1.43
Q4_4_7自分の興味・関心	2.36	1.56
Q4_4_8自分の性格の向き・不向き	2.82	1.37
Q4_4_9親の職業	3.42	1.64
Q4_4_10家庭の経済力	2.88	1.42
Q4_4_11入試科目・競争率	2.84	1.45
Q4_4_12資格を得る	2.90	1.41
Q4_4_13家族の意見	2.88	1.34
Q4_4_14先生の意見	2.81	1.34
Q4_4_15会津大の学生からの情報	3.19	1.51
Q4_4_16大学の設備	2.80	1.32
Q4_4_17大学の教育内容	2.45	1.40
Q4_4_18大学の就職実績	2.61	1.35
Q4_4_19大学の所在地	2.90	1.44
Q4_4_20大学卒業後の自分の進路	2.51	1.39
Q4_4_21大学の国際的環境	2.56	1.31

4.5 会津大学受験時に考慮したこと（その他記入）

省略

5. 進路等について

5.1 希望進路

学部卒業後の進路について、未定（92名・36.5%）である学生が最も多かった。大学院進学を希望している学生は、61名（24.2%）だった。

		N	%
Q5_1	1会津大学の大学院に進学希望	25	9.9%
	2他大学の大学院に進学希望	36	14.3%
	3就職希望	77	30.6%
	4起業希望	5	2.0%
	5未定	92	36.5%
	未記入／判別不可	17	6.7%

5.2 希望進路（その他記入）

省略

5.3 コンピュータの知識

新入生が入学時に知っているコンピュータの知識として多かったのは、“コンピュータが社会でどのように利用されているか”（180名・71.5%）についてであった。

		N	%
Q5_3_1 コンピュータの仕組み	1ある程度知っている	33	13.1%
	2少し知っている	94	37.3%
	3ほとんど知らない	111	44.0%
	未記入／判別不可	14	5.6%
Q5_3_2 コンピュータ関連の 仕事の内容	1ある程度知っている	26	10.3%
	2少し知っている	136	54.0%
	3ほとんど知らない	75	29.8%
	未記入／判別不可	15	6.0%
Q5_3_3 コンピュータが社会で どのように利用されているか	1ある程度知っている	42	16.7%
	2少し知っている	138	54.8%
	3ほとんど知らない	57	22.6%
	未記入／判別不可	15	6.0%
Q5_3_4 大学で行われている コンピュータの授業内容	1ある程度知っている	17	6.7%
	2少し知っている	111	44.0%
	3ほとんど知らない	109	43.3%
	未記入／判別不可	15	6.0%

5.4 得意なこと・苦手なこと

得意なことについて、1.得意、2.どちらかといえば得意、3.どちらともいえない、4.どちらかといえば苦手、5.苦手の5段階で回答を求めたところ、“知りたいことを調べること”が得意であることがわかった。一方で、“文章を書くこと”に対しては、得意ではないと感じていることがわかった。

	平均	標準偏差
Q5_4_1文章を書くこと	3.16	1.24
Q5_4_2本を読むこと	2.74	1.25
Q5_4_3筋道を立てて考えること	2.57	1.05
Q5_4_4知りたいことを調べること	2.11	1.03
Q5_4_5自分の意見を述べること	2.82	1.14
Q5_4_6人と協力して何かをやること	2.66	1.12

5.5 勉強したいこと

5.4の質問項目に引き続き、今後勉強していきたいことについて、1.勉強したい、2.どちらともいえない、3.勉強したくない、の3段階で回答を求めたところ、“筋道を立てて考えること”、“知りたいことを調べること”、“自分の意見を述べること”、“人と協力して何かをやること”を特に勉強したいと考えていることがわかった。

	平均	標準偏差
Q5_5_1文章を書くこと	1.50	.67
Q5_5_2本を読むこと	1.64	.64
Q5_5_3筋道を立てて考えること	1.22	.51
Q5_5_4知りたいことを調べること	1.27	.53
Q5_5_5自分の意見を述べること	1.24	.50
Q5_5_6人と協力して何かをやること	1.27	.54

6. PC等の使用状況等について

6.1 インターネット依存

「PC・スマートフォン等でインターネットに接続する時間が長くなり、日常生活に支障が出てきても、ネットから離れにくいということがありますか。」という質問に対し、ときどきある、よくある学生は、116名（46.0%）であった。

		N	%
Q6_1	1まったくない	29	11.5%
	2あまりない	91	36.1%
	3ときどきある	85	33.7%
	4よくある	31	12.3%
	未記入／判別不可	16	6.3%

6.2 情報端末の保有状況

現在、個人で保有している情報端末は、スマートフォン（223名・88.5%）が最も多く、次にPC（ノート）（172名・68.3%）が多かった。

		N	%
Q6_2_1	PC（ノート）	172	68.3%
Q6_2_2	PC（デスクトップ）	53	21.0%
Q6_2_3	タブレット	62	24.6%
Q6_2_4	スマートフォン	223	88.5%
Q6_2_5	その他	2	0.8%

6.3 自宅のネットワーク環境

自宅のネットワーク環境について、光回線（フレッツ光など）（103名・40.9%）を利用している学生が多かった。

		N	%
Q6_3	1光回線（フレッツ光など）	103	40.9%
	2WiMAXなど（スマホ以外のWiFiルーター、モバイルルーター）	29	11.5%
	3スマホのテザリング	17	6.7%
	4ネットワーク環境はあるが、上記のどれかわからない	74	29.4%
	5ネットワーク環境はない（ネットはスマホのみでコンピュータはネットに繋がっていないなども含む）	11	4.4%
	未記入／判別不可	18	7.1%

7. 食生活について

7.1 摂取状況

食事の摂取状況について、毎食きちんと食べている学生は、半数以上であった（143名・56.7%）。

		N	%
Q7_1	1 毎食きちんと食べていた	143	56.7%
	2 週1~2回どれか食べないときがあった	38	15.1%
	3 週3~4回どれか食べないときがあった	31	12.3%
	4 毎日きちんと食べていなかった	25	9.9%
	未記入/判別不可	15	6.0%

7.2 欠食状況

7.1 の質問で、毎食きちんと食べていた学生以外に対し、欠食していた食事について回答を求めたところ、朝食の欠食が多いことがわかった（85名・33.7%）。

		N	%
Q7_2	1 朝食	85	33.7%
	2 昼食	17	6.7%
	3 夕食	5	2.0%
	未記入/判別不可	145	57.5%

7.3 就寝前の食事

就寝前2時間以内に食事をとることについて、毎日ある学生が13名（5.2%）いることがわかった。

		N	%
Q7_3	1 毎日ある	13	5.2%
	2 週3~4回ある	44	17.5%
	3 週1~2回ある	82	32.5%
	4 まったくない	89	35.3%
	未記入/判別不可	24	9.5%

7.4 食事のバランス

食事のバランスについて、主食、主菜、副菜をとれている学生 121 名 (48%) ととれていない学生 (113 名・44.8%) と約半数ずつであった。

		N	%
Q7_4	1とれている	30	11.9%
	2どちらかといえばとれている	91	36.1%
	3どちらかといえばとれていない	90	35.7%
	4まったくとれていない	23	9.1%
	未記入／判別不可	18	7.1%

7.5 昼食内容

ふだんの昼食で食べているものについて、主食、副菜、主菜、水分は摂っているが、牛乳・乳製品や果物を摂っていない学生が多い傾向があることがわかった。

		N	%
Q7_5_1主食 (ご飯、パン、そば、 うどん、カップめん)	1食べて (飲んで) いる	231	91.7%
	2食べて (飲んで) いない	3	1.2%
	未記入／判別不可	18	7.1%
Q7_5_2副菜 (サラダ、野菜の煮物、 野菜炒め、煮豆など)	1食べて (飲んで) いる	139	55.2%
	2食べて (飲んで) いない	93	36.9%
	未記入／判別不可	20	7.9%
Q7_5_3 主菜 (豆腐、納豆、卵、肉、魚)	1食べて (飲んで) いる	174	69.0%
	2食べて (飲んで) いない	55	21.8%
	未記入／判別不可	23	9.1%
Q7_5_4牛乳、乳製品 (牛乳、チーズ、ヨーグルト)	1食べて (飲んで) いる	80	31.7%
	2食べて (飲んで) いない	140	55.6%
	未記入／判別不可	32	12.7%
Q7_5_5果物	1食べて (飲んで) いる	41	16.3%
	2食べて (飲んで) いない	180	71.4%
	未記入／判別不可	31	12.3%
Q7_5_6 お菓子 (カロリーメイト、菓子パンなど を含む)、嗜好飲料)	1食べて (飲んで) いる	64	25.4%
	2食べて (飲んで) いない	148	58.7%
	未記入／判別不可	40	15.9%
Q7_5_7水分 (水、お茶など糖分が入って いない飲み物)	1食べて (飲んで) いる	214	84.9%
	2食べて (飲んで) いない	16	6.3%
	未記入／判別不可	22	8.7%

8. 生活について

8.1 不安や悩み

入学時に、不安や悩みを抱えている学生は、131名（52.0%）と半数以上いることがわかった。

		N	%
Q8_1	1不安・悩みがある	131	52.0%
	2不安・悩みはない	94	37.3%
	未記入／判別不可	27	10.7%

8.2 不安や悩みの内容

8.1の質問に引き続き、不安や悩みの内容について回答を求めたところ、学業に関する不安や悩みが最も多いことがわかった（110名・43.7%）。

		N	%
Q8_2_1	学業	110	43.7%
Q8_2_2	健康	36	14.3%
Q8_2_3	性格・能力	38	15.1%
Q8_2_4	人生観	28	11.1%
Q8_2_5	課外活動	16	6.3%
Q8_2_6	就職や将来の進路	63	25.0%
Q8_2_7	友人等の対人関係のこと	49	19.4%
Q8_2_8	異性の問題	12	4.8%
Q8_2_9	性の問題	3	1.2%
Q8_2_10	経済問題（家計、学費、ローン）	28	11.1%
Q8_2_11	家族や家庭内のこと	2	0.8%
Q8_2_12	その他	14	5.6%

8.3 喫煙状況

ほとんどの学生が喫煙していないことがわかった。

		N	%
Q8_3	いいえ	232	92.1%

8.4 飲酒状況

ほとんどの学生が飲酒していないことがわかった。

		N	%
Q8_4	1はい	3	1.2%
	2いいえ	231	91.7%
	未記入／判別不可	18	7.1%

8.5 体重のコントロール

自分の体重を認識し、意識的に体重コントロールしている学生は54名（21.4%）であった。

		N	%
Q8_5	1はい	54	21.4%
	2いいえ	180	71.4%
	未記入／判別不可	18	7.1%

8.6 体力

「あなたの体力(筋力・持久力・バランス能力など)についてあてはまるものを選んでください。」という質問に対し、体力に余裕がない学生が半数以上であることがわかった（153名・60.7%）。

		N	%
Q8_6	1体力には充分余裕がある	12	4.8%
	2体力にはある程度余裕がある	68	27.0%
	3体力にはあまり余裕がない	99	39.3%
	4体力にはまったく余裕がない	54	21.4%
	未記入／判別不可	19	7.5%

8.7 受動喫煙の害

受動喫煙の害について、ほとんどの学生が知っていた。

		N	%
Q8_7	1よく知っている	155	61.5%
	2少し知っている	75	29.8%
	3知らない	5	2.0%
	未記入／判別不可	17	6.7%

8.8 新型コロナウイルス感染症の心配

新型コロナウイルス感染症について心配している学生は、半数以上いることがわかった。

		N	%
Q8_8	1まったく心配していない	33	13.1%
	2あまり心配していない	63	25.0%
	3少し心配している	110	43.7%
	4とても心配している	34	13.5%
	未記入／判別不可	12	4.8%

8.9 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症対策として、半数以上の学生は、マスクの着用（222名・88.1%）、手洗い・手指消毒（192名・76.2%）、人が多く集まる場所へ行かないこと（129名・51.2%）を行っていた。

		N	%
Q8_9_1	外出の際には、マスクの着用（咳エチケット）などの対策をしている	222	88.1%
Q8_9_2	石けんによる手洗いや手指消毒用アルコールによる消毒を行っている	192	76.2%
Q8_9_3	なるべく人が多く集まる場所へは行かないようにしている	129	51.2%
Q8_9_3	新型コロナウイルス関連の情報に注意している	94	37.3%
Q8_9_5	それ以外の対策をしている（記入者）	2	0.8%
Q8_9_6	対策をしていない	3	1.2%

9. 学生相談室及び保健室について

9.1 相談する人の有無

約80%の学生が、困ったときに相談する人がいると回答した。

		N	%
Q9_1	1はい	200	79.4%
	2いいえ	41	16.3%
	未記入／判別不可	11	4.4%

9.2 学生相談室の存在認識

学生相談室があることについて、ほとんどの学生は知っていた。

		N	%
Q9_2	1はい	194	77.0%
	2いいえ	32	12.7%
	未記入／判別不可	26	10.3%

9.3 学生相談室の場所認識

学生相談室の場所を知っている学生は、53名（21.0%）だった。

		N	%
Q9_3	1はい	53	21.0%
	2いいえ	182	72.2%
	未記入／判別不可	17	6.7%

9.4 学生相談室の利用希望

学生相談室を利用したいと考えている学生は、177名（70.2%）であった。

		N	%
Q9_4	1はい	177	70.2%
	2いいえ	51	20.2%
	未記入／判別不可	24	9.5%

9.5 オンライン講座について

「自己理解やストレスケアに関するオンライン講座に興味がありますか。」という質問に対し、63名（25.0%）の学生が興味を持っていることがわかった。

		N	%
Q9_5	1はい	63	25.0%
	2いいえ	175	69.4%
	未記入／判別不可	14	5.6%

9.6 保健室の存在認識

ほとんどの学生は、保健室の存在を知っていた。

		N	%
Q9_6	1はい	201	79.8%
	2いいえ	30	11.9%
	未記入／判別不可	21	8.3%

9.7 保健室の場所認識

保健室の場所を知らない学生が半数以上であった（145名・57.5%）。

		N	%
Q9_7	1はい	89	35.3%
	2いいえ	145	57.5%
	未記入／判別不可	18	7.1%

9.8 保健室の開室時間

保健室の開室時間について、70%以上の学生が知らなかった。

		N	%
Q9_8	1はい	56	22.2%
	2いいえ	177	70.2%
	未記入／判別不可	19	7.5%

9.9 体組成計による健康管理

体組成計を使って意識的に健康管理をしたい学生は、91名（36.1%）であった。

		N	%
Q9_9	1はい	91	36.1%
	2いいえ	148	58.7%
	未記入／判別不可	13	5.2%

IV. 考察

今回の調査の目的である、会津大学へどのような過程で進学したか、学習面においてどのような意識・能力の特徴や経験を持った高校生だったのかを把握することができたと考える。学生の回答から、進学までの過程と学習面についての意識・能力、経験について考察していく。

1. 進学までの過程

受験を決めた時期について、高校3年生になってから決断する学生が多いことが分かった。しかし、高校1・2年生で受験を決めた学生も25%ほどいた。高校3年生になる前から会津大学への受験を考える背景について、本学が早期入学制度を用いていることと関連があるかもしれない。また、受験時に、“自分の興味・関心”、“大学の教育内容”等を重視しており、やりたいことを実現できる可能性を求めて本学を希望したと考えられる。このことから、入学時では本学への進学を希望通りと回答した学生が多かったことがうかがえた。

高校時代に得意だった科目について、コンピュータ理工学部であるため、理系科目を得意とする学生が多いことが毎年の傾向である。しかし、近年、英語を得意とする学生が増えていることが、これまでの調

査との比較で把握できた。2020年度の調査では、英語を得意とする学生が87名(39.0%)であったのに対し、今回の調査では、124名(49.2%)であった。また、苦手な科目では、例年通り、国語と回答した学生が多かった。しかし、化学を苦手とする学生が2020年度の調査では85名(38.1%)だったのに対し、今回の調査では、125名(49.6%)であった。このことから、理系大学であっても、進学してくる学生の学習科目に対する得意・不得意の認識は、多様化しているといえる。

2. 学習面についての意識・能力、経験

新入生のほとんどが、普通科を卒業している学生であり、コンピュータに関する知識やコンピュータの活用に関する情報を高校時代に学習しているわけではない。従って、大学においてコンピュータに関する知識や技術の習得を目指す学生がほとんどであるといえる。特に、コンピュータの仕組みや大学で行われているコンピュータの授業内容についてはほとんど知らない学生も多いことがわかった。学生の実態と授業内容との比較を行うことで、効果的な学習の機会の提供に繋がる可能性がある。

高校時代までの経験において、文章を書くことを得意としない学生が多いことは、毎年の傾向である。これに対し、大学で文章を書くことを学んでいきたいと考える学生もいる。このような実態において、文化研究センターの教員が担当する「アカデミック・スキル1」「アカデミック・スキル2」では、論理的に文章を読む・書くという授業を行っている。専門科目以外においても、新入生の学習意欲の実態を把握したうえで授業を展開できるといえる。

コンピュータの専門的な知識や技術は浅いものの、保有している情報端末の回答から、ほとんどの学生が、スマートフォンやPC(ノート)を保有しコンピュータに触れる機会が多いことがわかる。しかし、こうした情報端末を簡単に使用できる、占有できる機会があることで、日常生活に支障が出てきても、ネットから離れにくい学生が半数近くいることがわかった。今後、心身の健康問題とともに、コンピュータの適切な使い方についても指導していくが必要になる。

V. まとめ

本調査は、会津大学学生課学生支援係、生活調査ワーキンググループにより、質問項目を時代に合わせて変化させながら、1998年より継続的に行ってきた。今回の調査で13回目となり、経年比較も十分に行ってきたといえる。この調査結果をもとに、学習内容、学習しやすい環境、心身の健康維持等を再考することとなり、学生支援の一助を担ってきた。しかし、本調査以外にも、学生支援を目的とした調査は行われており、本調査の意義や目的が、他の調査でも補うことができるのではないかと、という問題提起がなされた。話し合いの末に、本調査は2022年度をもって終了することとなった。

今後、学生の支援を目的とした調査は別に行い、その結果をもとに、大学の運営・支援に役立てていきたいと考える。これまでご協力いただいた皆様に対し、感謝の意を表す。

参考文献

- ベネッセ教育総研 2001 報告書「学生満足度と大学教育の問題」
- 菊地 則行・中澤 謙 1999 98年度会津大学新入生の生活と意識1ー基礎集計ー 会津大学文化研究センター研究年報 第5号 61-79
- 菊地 則行 2000 98年度会津大学生の生活と意識2ークロス集計 会津大学文化研究センター第6号 37-89
- 菊地 則行 2000 98年度会津大学生の生活と意識2ークロス集計ー 会津大学文化研究センター研究年

報 第6号 61-79

- 菊地 則行・中澤 謙 2001 2000 年度会津大学新入生の生活と意識 1 ―基礎集計― 会津大学文化研究センター研究年報 第7号 63-86
- 菊地 則行 2002 2000 年度会津大学生の生活と意識 2 ―クロス集計：学習生活の違いによる分析― 会津大学文化研究センター研究年報 第8号 23-47
- 菊地 則行・中澤 謙 2003 2002 年度会津大学生の生活と意識 1 ―基礎集計― 会津大学文化研究センター研究年報 第9号 133-174
- 菊地 則行 2004 2002 年度会津大学生の生活と意識 2 ―クロス集計：学習スタイルの違いによる分析― 会津大学文化研究センター研究年報 第10号 39-61
- 菊地 則行・中澤 謙 2005 2004 年度会津大新入生の生活と意識 1 ―基礎集計― 会津大学文化研究センター研究年報 第11号 33-50
- 菊地 則行・中澤 謙 2007 2006 年度会津大生の生活と意識 1 ―基礎集計― 会津大学文化研究センター研究年報 第13号 97-137
- 菊地 則行・中澤 謙 2009 2008 年度会津大新入生の生活と意識 1 ―基礎集計― 会津大学文化研究センター研究年報 第15号 53-71
- 菊地 則行・中澤 謙 2011 2010 年度会津大学生の生活と意識 1 ―基礎集計― 会津大学文化研究センター研究年報 第17号 91-137
- 菊地 則行・中澤 謙 2013 2012 年度会津大学新入生の生活と意識 1 ―基礎集計― 会津大学文化研究センター研究年報 第19号 109-132
- 菊地 則行・中澤 謙 2017 2016 年度会津大学新入生の生活と意識 1 ―基礎集計― 会津大学文化研究センター研究年報 第23号 25-52
- 中澤 謙・菊地 則行 2017 2016 年度会津大学生の生活と意識 1 ―基礎集計― 会津大学文化研究センター研究年報 第23号 53-106
- 中澤 謙 2019 2018 年度会津大学新入生の生活と意識 1 ―基礎集計― 会津大学文化研究センター研究年報 第25号 73-99
- 中澤 謙 2019 2018 年度会津大学生の生活と意識 1 ―基礎集計― 会津大学文化研究センター研究年報 第25号 101-151
- 蛭名 正司・沖 和砂・中澤 謙 2021 2020 年度会津大学新入生の生活と意識 1 ―基礎集計― 会津大学文化研究センター研究年報 第27号 11-34
- 沖 和砂・蛭名 正司・中澤 謙 2021 2020 年度会津大学生の生活と意識 1 ―基礎集計― 会津大学文化研究センター研究年報 第27号 35-92

2022 年度会津大学生の生活と意識に関する調査

沖 和砂・蛭名 正司

I. 問題と目的

本調査は、会津大学の教育・学生支援環境を点検・整備するための資料を得るために、会津大学生の生活と意識・行動を多面的に分析することを目的としている。今回は、1998年、2000年、2002年、2004年、2006年、2008年、2010年、2012年、2014年、2016年、2018年、2020年に続く第13回目の調査である。

調査の主な関心は、会津大学生の生活の実態と学習に対する意識等を把握することである。

II. 方法

質問紙調査法を用い、大学主催の健康診断時（2022年4月）に調査用紙を配布・回収した。なお、回答は無記名である。対象者は、会津大学生2～4年生819名（休学者含む）、有効回答数は、569名、回答率は、69.5%であった。

質問項目については、下記の通りである。

1. 基本的属性

1.1 学年 1.2 年齢 1.3 性別 1.4 出身高校の所在地 1.5 出身高校の課程

1.6 出身高校の課程（その他記入） 1.7 入試区分 1.8 現在の住まい 1.9 主な通学方法

2. 昨年度（2021年4月～2022年3月）の1ヶ月平均収入・支出（一万円未満切り捨て）

2.1 総収入 2.2 【収入】家族からの援助 2.3 【収入】アルバイト 2.4 【収入】奨学金 2.5 総支出

2.6 【支出】家賃 2.7 【支出】食費 2.8 【支出】図書、雑誌代等の勉学費 2.9 【支出】趣味・交際費

2.10 【支出】通信費

3. 昨年度（2021年4月～2022年3月）のアルバイトについて

3.1 アルバイトの実施状況 3.2 アルバイト平均時間 3.3 アルバイト内容 3.4 アルバイト内容（その他）

4. 昨年度（2021年4月～2022年3月）の生活パターンについて

4.1 通学日数 4.2 授業時間外での勉強時間 4.3 平均的な起床時間 4.4 平均的な就寝時間

4.5 平均的な運動回数 4.6 授業の理解度 4.7 授業の出席率 4.8 学生生活の充実度

4.9 学生生活の満足度 4.10 課外活動参加状況

5. 現在のことについて

5.1 学部卒業後の進路 5.2 学部卒業後の進路（その他） 5.3 大学生活が進路を考える上で役立つか

5.4 役立つ大学生活の内容 5.5 大学生活で伸びた力について

5.6 大学生活で伸びた力について（その他）

6. PC等の使用状況等について

6.1 インターネット依存 6.2 情報端末の保有状況 6.3 自宅のネットワーク環境

7. 食生活について

- 7.1 摂取状況 7.2 欠食状況 7.3 就寝前の食事 7.4 食事のバランス 7.5 昼食内容
- 7.6 朝食券の購入状況

8. 生活について

- 8.1 助け合う友人の有無 8.2 相談できる友人の有無 8.3 不安や悩み 8.4 不安や悩みの内容
- 8.5 喫煙状況 8.6 飲酒状況 8.7 体重のコントロール 8.8 体力 8.9 違法薬物について
- 8.10 違法薬物の購入や体験 8.11 受動喫煙の害 8.12 身体面の健康 8.13 精神面の健康
- 8.14 ハラスメント 8.15 ハラスメント相談 8.16 ハラスメント相談しない理由
- 8.17 ハラスメント相談しない理由（その他） 8.18 ハラスメント相談員制度の認知
- 8.19 ハラスメント相談員への相談希望 8.20 新型コロナウイルス感染症の心配
- 8.21 新型コロナウイルス感染対策

9. 学生相談室及び保健室について

- 9.1 相談する人の有無 9.2 学生相談室の存在認識 9.3 学生相談室の場所認識
- 9.4 学生相談室の利用希望 9.5 オンライン講座について 9.6 保健室の存在認識
- 9.7 保健室の場所認識 9.8 保健室の開室時間 9.9 体組成計による健康管理

10. 修学支援室・就職支援室について

- 10.1 修学支援室と就職支援室の違い 10.2 修学支援室の存在認識 10.3 修学支援室の場所認識
- 10.4 修学支援室の利用状況 10.5 修学支援室の利用希望 10.6 就職支援室の存在認識
- 10.7 就職支援室の場所認識 10.8 就職支援室の利用状況 10.9 就職支援室の利用希望
- 10.10 困った際の対処方法

Ⅲ. 調査結果

1. 基本的属性

本調査の対象は、会津大学生（2～4年生）819名（休学者含む）であった。回答率は、69.5%（569名）であった。

1.1 学年と 1.2 年齢と 1.3 性別

学年ごとの回答者数は、2年生が215名と他の学年に比べて回答者数が多かった。

		学年				未記入／ 判別不可
		2年生	3年生	4年生	留年生	
Q1_2	度数	215	163	158	24	9
	年齢平均値	19.58	20.36	21.22	22.38	19.89
	年齢標準偏差	1.53	.74	.84	1.24	.93

			学年				
			2年生	3年生	4年生	留年生	未記入／判別不可
Q1_3	男	度数	190	144	136	22	7
		%	88.4%	88.3%	86.1%	91.7%	77.8%
	女	度数	22	19	20	2	1
		%	10.2%	11.7%	12.7%	8.3%	11.1%
	どちらともいえない	度数	0	0	0	0	0
		%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	未記入／判別不可	度数	3	0	2	0	1
		%	1.4%	0.0%	1.3%	0.0%	11.1%

1.4 出身高校の所在地

出身高校が福島県外の学生は、各学年で50%以上いることがわかった。

			2年生	3年生	4年生	留年生	未記入／判別不可
Q1_4	1福島県内	度数	75	68	62	6	2
		%	34.9%	41.7%	39.2%	25.0%	22.2%
	2福島県外	度数	138	93	90	16	6
		%	64.2%	57.1%	57.0%	66.7%	66.7%
	未記入／判別不可	度数	2	2	6	2	1
		%	0.9%	1.2%	3.8%	8.3%	11.1%

1.5 出身高校の課程

どの学年も、普通科の出身者が80%以上であることがわかった。

			2年生	3年生	4年生	留年生	未記入／判別不可
Q1_5	1普通科	度数	184	139	130	22	8
		%	85.6%	85.3%	82.3%	91.7%	88.9%
	2専門学科	度数	12	14	15	0	0
		%	5.6%	8.6%	9.5%	0.0%	0.0%
	3その他	度数	16	7	7	1	0
		%	7.4%	4.3%	4.4%	4.2%	0.0%
	未記入／判別不可	度数	3	3	6	1	1
		%	1.4%	1.8%	3.8%	4.2%	11.1%

1.6 出身高校の課程（その他記入）

省略

1.7 入試区分

入試区分では、どの学年も一般入試 A が最も多く、次いで推薦入試 A または一般入試 B の入試形態で入学した学生が多かった。

			2 年生	3 年生	4 年生	留年生	未記入/判別不可
Q1_7	1 推薦入試A (学校推薦型選抜A)	度数	40	29	35	2	2
		%	18.6%	17.8%	22.2%	8.3%	22.2%
	2 推薦入試B (学校推薦型選抜B)	度数	11	14	9	2	0
		%	5.1%	8.6%	5.7%	8.3%	0.0%
	3 一般入試A (一般選抜A)	度数	102	81	72	11	6
		%	47.4%	49.7%	45.6%	45.8%	66.7%
	4 一般入試B (一般選抜B)	度数	52	30	38	7	0
		%	24.2%	18.4%	24.1%	29.2%	0.0%
	5 その他	度数	2	2	1	0	0
		%	0.9%	1.2%	0.6%	0.0%	0.0%
	未記入/判別不可	度数	8	7	3	2	1
		%	3.7%	4.3%	1.9%	8.3%	11.1%

1.8 現在の住まい

自宅外に住む学生は、2~4 年生で半数以上を占めることがわかった。創明寮に住む学生は、学年が上がるると少なくなっていくこともわかった。

			2 年生	3 年生	4 年生	留年生	未記入/判別不可
Q1_8	1 自宅	度数	88	67	68	11	2
		%	40.9%	41.1%	43.0%	45.8%	22.2%
	2 創明寮	度数	6	1	1	0	0
		%	2.8%	0.6%	0.6%	0.0%	0.0%
	3 自宅外 (創明寮を除く)	度数	112	92	84	11	4
		%	52.1%	56.4%	53.2%	45.8%	44.4%
	未記入/判別不可	度数	9	3	5	2	3
		%	4.2%	1.8%	3.2%	8.3%	33.3%

1.9 主な通学方法

全体的に、自転車通学の学生が多いことがうかがえる。バイクや自転車で通学する学生は、学年が上がるほど多くなる傾向であった。

		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可	
Q1_9	1徒歩	度数	61	28	37	3	1
		%	28.4%	17.2%	23.4%	12.5%	11.1%
	2自転車	度数	120	96	64	15	4
		%	55.8%	58.9%	40.5%	62.5%	44.4%
	3バイク	度数	2	3	4	0	0
		%	0.9%	1.8%	2.5%	0.0%	0.0%
	4自家用車	度数	22	32	43	3	1
		%	10.2%	19.6%	27.2%	12.5%	11.1%
	5バス	度数	3	0	2	1	0
		%	1.4%	0.0%	1.3%	4.2%	0.0%
	6鉄道	度数	4	0	3	1	0
		%	1.9%	0.0%	1.9%	4.2%	0.0%
	未記入/判別不可	度数	3	4	5	1	3
		%	1.4%	2.5%	3.2%	4.2%	33.3%

2. 昨年度（2021年4月～2022年3月）の1ヶ月平均収入・支出（一万円未満切り捨て）

この項目は、“昨年度（2021年4月～2022年3月）のあなたのおよその1ヶ月平均収入・支出（一万円未満切り捨て）を教えてください。収入・支出がない項目は1の位の“0”をマークしてください。”という質問に対し回答しているものである。

2.1 総収入(万円)

総収入が0円である学生が、各学年に20%程度いることがわかった。

		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可	
Q2_1	0	度数	58	32	34	4	2
		%	27.0%	19.6%	21.5%	16.7%	22.2%
	1	度数	2	1	0	0	0
		%	0.9%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	2	度数	1	6	2	0	0
		%	0.5%	3.7%	1.3%	0.0%	0.0%
	3	度数	7	5	2	0	0
		%	3.3%	3.1%	1.3%	0.0%	0.0%
	4	度数	6	8	3	0	0
		%	2.8%	4.9%	1.9%	0.0%	0.0%

5	度数	6	6	8	1	1
	%	2.8%	3.7%	5.1%	4.2%	11.1%
6	度数	4	5	2	0	0
	%	1.9%	3.1%	1.3%	0.0%	0.0%
7	度数	8	7	4	0	0
	%	3.7%	4.3%	2.5%	0.0%	0.0%
8	度数	15	10	9	0	0
	%	7.0%	6.1%	5.7%	0.0%	0.0%
9	度数	7	6	1	0	0
	%	3.3%	3.7%	0.6%	0.0%	0.0%
10	度数	13	18	19	1	1
	%	6.0%	11.0%	12.0%	4.2%	11.1%
11	度数	1	3	2	0	0
	%	0.5%	1.8%	1.3%	0.0%	0.0%
12	度数	7	5	5	1	1
	%	3.3%	3.1%	3.2%	4.2%	11.1%
13	度数	7	1	3	0	0
	%	3.3%	0.6%	1.9%	0.0%	0.0%
14	度数	6	1	3	0	0
	%	2.8%	0.6%	1.9%	0.0%	0.0%
15	度数	7	3	7	1	0
	%	3.3%	1.8%	4.4%	4.2%	0.0%
16	度数	1	1	0	1	0
	%	0.5%	0.6%	0.0%	4.2%	0.0%
17	度数	1	1	0	0	0
	%	0.5%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
18	度数	1	2	3	1	1
	%	0.5%	1.2%	1.9%	4.2%	11.1%
20	度数	1	6	0	1	0
	%	0.5%	3.7%	0.0%	4.2%	0.0%
23	度数	0	0	1	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
28	度数	3	0	1	0	1
	%	1.4%	0.0%	0.6%	0.0%	11.1%
30万以上	度数	25	22	31	6	1
	%	11.6%	13.5%	19.6%	25.0%	11.1%
未記入／判別不可	度数	28	14	18	7	1
	%	13.0%	8.6%	11.4%	29.2%	11.1%

2.2 【収入】 家族からの援助（学費は除く）（万円）

家族からの援助が、10万円以上の学生が全体的に多く、特に留年生は41.7%と他の学年よりも10万円以上の援助を受けていることがわかった。

			2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可
Q2_2	0	度数	44	29	46	4	2
		%	20.5%	17.8%	29.1%	16.7%	22.2%
	1	度数	3	6	3	0	0
		%	1.4%	3.7%	1.9%	0.0%	0.0%
	2	度数	8	6	3	0	1
		%	3.7%	3.7%	1.9%	0.0%	11.1%
	3	度数	15	8	6	1	0
		%	7.0%	4.9%	3.8%	4.2%	0.0%
	4	度数	12	12	8	0	0
		%	5.6%	7.4%	5.1%	0.0%	0.0%
	5	度数	21	14	8	4	1
		%	9.8%	8.6%	5.1%	16.7%	11.1%
	6	度数	7	8	4	0	0
		%	3.3%	4.9%	2.5%	0.0%	0.0%
	7	度数	3	4	4	1	0
		%	1.4%	2.5%	2.5%	4.2%	0.0%
	8	度数	9	3	8	1	0
		%	4.2%	1.8%	5.1%	4.2%	0.0%
	9	度数	4	1	3	0	2
		%	1.9%	0.6%	1.9%	0.0%	22.2%
	10万以上	度数	71	58	56	10	3
		%	33.0%	35.6%	35.4%	41.7%	33.3%
	未記入/判別不可	度数	18	14	9	3	0
		%	8.4%	8.6%	5.7%	12.5%	0.0%

2.3 【収入】アルバイト（万円）

アルバイトによる収入には、ばらつきがみられた。しかし、全学年に共通することは、アルバイトによる収入が0円の学生が多いことであった。

			2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可
Q2_3	0	度数	110	52	58	10	5
		%	51.2%	31.9%	36.7%	41.7%	55.6%
	1	度数	9	8	7	1	0
		%	4.2%	4.9%	4.4%	4.2%	0.0%
	2	度数	7	10	7	1	0
		%	3.3%	6.1%	4.4%	4.2%	0.0%
	3	度数	19	15	6	0	0
		%	8.8%	9.2%	3.8%	0.0%	0.0%
	4	度数	10	11	9	0	0
		%	4.7%	6.7%	5.7%	0.0%	0.0%
	5	度数	5	11	15	4	1
		%	2.3%	6.7%	9.5%	16.7%	11.1%
	6	度数	3	3	2	0	0
		%	1.4%	1.8%	1.3%	0.0%	0.0%
	7	度数	1	4	5	0	0
		%	0.5%	2.5%	3.2%	0.0%	0.0%
	8	度数	3	4	5	0	1
		%	1.4%	2.5%	3.2%	0.0%	11.1%
	9	度数	3	0	1	0	0
		%	1.4%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
	10万以上	度数	32	36	31	6	2
		%	14.9%	22.1%	19.6%	25.0%	22.2%
	未記入/判別不可	度数	13	9	12	2	0
		%	6.0%	5.5%	7.6%	8.3%	0.0%

2.4【収入】奨学金（万円）

奨学金による収入は、10万円以上得ている学生が、各学年において15%~20%程度いることがわかった。

		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可	
Q2_4	0	度数	128	92	78	20	4
		%	59.5%	56.4%	49.4%	83.3%	44.4%
	1	度数	1	0	1	0	0
		%	0.5%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
	2	度数	2	5	3	0	0
		%	0.9%	3.1%	1.9%	0.0%	0.0%
	3	度数	5	5	4	0	0
		%	2.3%	3.1%	2.5%	0.0%	0.0%
	4	度数	11	7	6	1	0
		%	5.1%	4.3%	3.8%	4.2%	0.0%
	5	度数	8	10	9	1	1
		%	3.7%	6.1%	5.7%	4.2%	11.1%
	6	度数	4	2	4	0	0
		%	1.9%	1.2%	2.5%	0.0%	0.0%
	7	度数	1	1	1	0	0
		%	0.5%	0.6%	0.6%	0.0%	0.0%
	8	度数	3	4	7	0	0
		%	1.4%	2.5%	4.4%	0.0%	0.0%
	9	度数	3	2	2	0	0
		%	1.4%	1.2%	1.3%	0.0%	0.0%
	10万以上	度数	33	24	33	0	4
		%	15.3%	14.7%	20.9%	0.0%	44.4%
	未記入/判別不可	度数	16	11	10	2	0
		%	7.4%	6.7%	6.3%	8.3%	0.0%

2.5 総支出（万円）

昨年度1年間の総支出が、30万円以上である学生が全体で100名以上いることが分かった。

		2年生	3年生	4年生	留学生	未記入/判別不可	
Q2_5	0	度数	16	6	7	0	0
		%	7.4%	3.7%	4.4%	0.0%	0.0%
	1	度数	1	4	0	0	0
		%	0.5%	2.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	2	度数	6	3	2	0	0
		%	2.8%	1.8%	1.3%	0.0%	0.0%
	3	度数	14	9	7	0	0
		%	6.5%	5.5%	4.4%	0.0%	0.0%
	4	度数	3	12	4	1	0
		%	1.4%	7.4%	2.5%	4.2%	0.0%
	5	度数	19	12	5	3	0
		%	8.8%	7.4%	3.2%	12.5%	0.0%
	6	度数	7	4	7	0	0
		%	3.3%	2.5%	4.4%	0.0%	0.0%
	7	度数	13	6	11	1	0
		%	6.0%	3.7%	7.0%	4.2%	0.0%
	8	度数	15	13	15	0	0
		%	7.0%	8.0%	9.5%	0.0%	0.0%
	9	度数	17	7	8	2	3
		%	7.9%	4.3%	5.1%	8.3%	33.3%
	10	度数	22	20	16	3	3
		%	10.2%	12.3%	10.1%	12.5%	33.3%
	11	度数	6	5	4	1	0
		%	2.8%	3.1%	2.5%	4.2%	0.0%
	12	度数	1	1	4	1	0
		%	0.5%	0.6%	2.5%	4.2%	0.0%
	13	度数	2	0	5	0	0
		%	0.9%	0.0%	3.2%	0.0%	0.0%
	15	度数	0	3	1	0	1
		%	0.0%	1.8%	0.6%	0.0%	11.1%
	16	度数	2	1	0	0	0
		%	0.9%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	17	度数	1	1	0	0	0
		%	0.5%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	18	度数	3	0	1	0	0
		%	1.4%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%

19	度数	0	2	0	0	0
	%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%
20	度数	1	1	0	0	0
	%	0.5%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
25	度数	0	0	1	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
28	度数	1	0	0	0	0
	%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
29	度数	0	1	0	0	0
	%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
30万以上	度数	35	26	41	7	2
	%	16.3%	16.0%	25.9%	29.2%	22.2%
未記入／判別不可	度数	30	26	19	5	0
	%	14.0%	16.0%	12.0%	20.8%	0.0%

2.6【支出】家賃（万円）

各学年において、家賃が3～5万円である学生が半数であることがわかった。しかし、家賃が10万円以上の学生が、各学年の20%～30%いることもわかった。

		2年生	3年生	4年生	留学生	未記入／判別不可	
Q2_6	0	度数	35	28	25	5	1
		%	16.3%	17.2%	15.8%	20.8%	11.1%
	1	度数	6	0	0	0	0
		%	2.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	2	度数	6	3	5	0	0
		%	2.8%	1.8%	3.2%	0.0%	0.0%
	3	度数	31	21	20	4	3
		%	14.4%	12.9%	12.7%	16.7%	33.3%
	4	度数	44	33	34	5	0
		%	20.5%	20.2%	21.5%	20.8%	0.0%
	5	度数	23	18	19	2	0
		%	10.7%	11.0%	12.0%	8.3%	0.0%
	6	度数	0	3	0	1	0
		%	0.0%	1.8%	0.0%	4.2%	0.0%
	7	度数	2	0	1	0	1
		%	0.9%	0.0%	0.6%	0.0%	11.1%
	8	度数	1	1	3	0	0
		%	0.5%	0.6%	1.9%	0.0%	0.0%

10万以上	度数	51	49	42	5	3
	%	23.7%	30.1%	26.6%	20.8%	33.3%
未記入／判別不可	度数	16	7	9	2	1
	%	7.4%	4.3%	5.7%	8.3%	11.1%

2.7【支出】食費（万円）

各学年において、食費が10万円以上だったという学生が20%～30%程度いることがわかった。

			2年生	3年生	4年生	留年生	未記入／判別不可
Q2_7	0	度数	16	13	12	2	2
		%	7.4%	8.0%	7.6%	8.3%	22.2%
	1	度数	31	14	11	0	1
		%	14.4%	8.6%	7.0%	0.0%	11.1%
	2	度数	53	34	40	4	0
		%	24.7%	20.9%	25.3%	16.7%	0.0%
	3	度数	31	37	31	6	2
		%	14.4%	22.7%	19.6%	25.0%	22.2%
	4	度数	10	9	9	3	2
		%	4.7%	5.5%	5.7%	12.5%	22.2%
	5	度数	2	1	5	0	0
		%	0.9%	0.6%	3.2%	0.0%	0.0%
	7	度数	1	0	0	0	0
		%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	8	度数	3	0	0	0	0
		%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	9	度数	2	3	1	0	0
		%	0.9%	1.8%	0.6%	0.0%	0.0%
	10万以上	度数	49	42	41	7	2
		%	22.8%	25.8%	25.9%	29.2%	22.2%
	未記入／判別不可	度数	17	10	8	2	0
		%	7.9%	6.1%	5.1%	8.3%	0.0%

2.8【支出】図書、雑誌等の勉学費（学費は除く）（万円）

全学年に共通して、図書、雑誌等の勉学費は、1万円程度である学生が多かった。

		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可	
Q2_8	0	度数	57	49	42	6	4
		%	26.5%	30.1%	26.6%	25.0%	44.4%
	1	度数	89	57	68	8	2
		%	41.4%	35.0%	43.0%	33.3%	22.2%
	2	度数	12	15	14	2	1
		%	5.6%	9.2%	8.9%	8.3%	11.1%
	3	度数	8	3	4	0	1
		%	3.7%	1.8%	2.5%	0.0%	11.1%
	4	度数	3	0	1	0	0
		%	1.4%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
	5	度数	9	3	1	1	0
		%	4.2%	1.8%	0.6%	4.2%	0.0%
	6	度数	0	1	1	0	0
		%	0.0%	0.6%	0.6%	0.0%	0.0%
	7	度数	1	0	0	0	0
		%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	8	度数	1	2	0	0	0
		%	0.5%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%
	9	度数	7	6	3	0	0
		%	3.3%	3.7%	1.9%	0.0%	0.0%
	10万以上	度数	12	15	16	3	1
		%	5.6%	9.2%	10.1%	12.5%	11.1%
	未記入/判別不可	度数	16	12	8	4	0
		%	7.4%	7.4%	5.1%	16.7%	0.0%

2.9【支出】趣味・交際費（万円）

趣味・交際費は、1～2万円である学生が各学年で半数を占めていた。趣味・交際費が10万円以上である学生は、学年が上がるごとに増えていることもわかった。

		2年生	3年生	4年生	留学生	未記入/判別不可	
Q2_9	0	度数	29	19	17	2	0
		%	13.5%	11.7%	10.8%	8.3%	0.0%
	1	度数	78	65	47	7	1
		%	36.3%	39.9%	29.7%	29.2%	11.1%
	2	度数	32	23	34	2	1
		%	14.9%	14.1%	21.5%	8.3%	11.1%
	3	度数	12	10	14	2	1
		%	5.6%	6.1%	8.9%	8.3%	11.1%
	4	度数	3	0	2	1	1
		%	1.4%	0.0%	1.3%	4.2%	11.1%
	5	度数	6	1	3	0	0
		%	2.8%	0.6%	1.9%	0.0%	0.0%
	6	度数	1	1	0	0	0
		%	0.5%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	7	度数	1	0	1	0	0
		%	0.5%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
	8	度数	4	1	0	1	0
		%	1.9%	0.6%	0.0%	4.2%	0.0%
	9	度数	7	4	3	0	1
		%	3.3%	2.5%	1.9%	0.0%	11.1%
	10万以上	度数	26	29	32	6	3
		%	12.1%	17.8%	20.3%	25.0%	33.3%
	未記入/判別不可	度数	16	10	5	3	1
		%	7.4%	6.1%	3.2%	12.5%	11.1%

2.10【支出】通信費（自分で支払いをしている学生のみ回答）（万円）

自分で通信費を支払っている学生は、各学年において10%～20%である。支払っている金額は、1万円程度である学生が多かった。

			2年生	3年生	4年生	留学生	未記入/判別不可
Q2_10	0	度数	104	69	78	9	6
		%	48.4%	42.3%	49.4%	37.5%	66.7%
	1	度数	20	14	24	0	0
		%	9.3%	8.6%	15.2%	0.0%	0.0%
	2	度数	2	1	1	2	1
		%	0.9%	0.6%	0.6%	8.3%	11.1%
	3	度数	0	1	2	0	0
		%	0.0%	0.6%	1.3%	0.0%	0.0%
	4	度数	1	0	0	0	0
		%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	5	度数	0	1	0	0	0
		%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	6	度数	2	0	0	1	0
		%	0.9%	0.0%	0.0%	4.2%	0.0%
	9	度数	2	4	0	0	0
		%	0.9%	2.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	10万以上	度数	3	5	9	0	1
		%	1.4%	3.1%	5.7%	0.0%	11.1%
	未記入/判別不可	度数	81	68	44	12	1
		%	37.7%	41.7%	27.8%	50.0%	11.1%

3. 昨年度（2021年4月～2022年3月）のアルバイトについて

3.1 アルバイトの実施状況

年間を通じてアルバイトをしている学生は、学年が上がるほど人数が多くなっている。3年生と4年生では、80名以上の学生が、年間を通じてアルバイトをしている。2年生は、アルバイトをしていない学生が94名であった。

			学年				
			2年生	3年生	4年生	留年生	未記入／判別不可
Q3_1	1しなかった	度数	94	42	41	8	4
		%	43.7%	25.8%	25.9%	33.3%	44.4%
	2長期休暇中のみ	度数	13	6	4	1	0
		%	6.0%	3.7%	2.5%	4.2%	0.0%
	3必要に応じて そのつど	度数	21	14	20	4	1
		%	9.8%	8.6%	12.7%	16.7%	11.1%
	4授業期間中 定期的に	度数	19	12	9	3	0
		%	8.8%	7.4%	5.7%	12.5%	0.0%
	5年間を通じて	度数	62	84	80	7	4
		%	28.8%	51.5%	50.6%	29.2%	44.4%
	未記入／判別不可	度数	6	5	4	1	0
		%	2.8%	3.1%	2.5%	4.2%	0.0%

3.2 アルバイト平均時間

前項目 3.1 で“授業期間中定期的に”と“年間を通じて”を選択した場合の平均時間（週～時間）について回答を求めたところ、勤務時間のばらつきがみられた。ほとんどの学生は、週に20時間以内のアルバイトをしていることがわかった。

			学年				
			2年生	3年生	4年生	留年生	未記入／判別不可
Q3_2	0	度数	22	8	9	1	1
		%	10.2%	4.9%	5.7%	4.2%	11.1%
	1	度数	4	3	0	0	0
		%	1.9%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%
	2	度数	2	7	7	1	0
		%	0.9%	4.3%	4.4%	4.2%	0.0%
	3	度数	9	7	6	1	0
		%	4.2%	4.3%	3.8%	4.2%	0.0%
	4	度数	0	4	8	0	0
		%	0.0%	2.5%	5.1%	0.0%	0.0%

5	度数	7	6	3	0	0
	%	3.3%	3.7%	1.9%	0.0%	0.0%
6	度数	6	7	0	1	0
	%	2.8%	4.3%	0.0%	4.2%	0.0%
7	度数	0	2	1	0	0
	%	0.0%	1.2%	0.6%	0.0%	0.0%
8	度数	9	5	3	1	1
	%	4.2%	3.1%	1.9%	4.2%	11.1%
9	度数	3	5	1	1	0
	%	1.4%	3.1%	0.6%	4.2%	0.0%
10	度数	12	8	9	0	1
	%	5.6%	4.9%	5.7%	0.0%	11.1%
11	度数	0	0	1	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
12	度数	2	6	12	0	0
	%	0.9%	3.7%	7.6%	0.0%	0.0%
13	度数	2	2	0	0	0
	%	0.9%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%
14	度数	0	3	0	0	0
	%	0.0%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%
15	度数	10	4	5	1	0
	%	4.7%	2.5%	3.2%	4.2%	0.0%
16	度数	1	5	1	0	0
	%	0.5%	3.1%	0.6%	0.0%	0.0%
17	度数	2	1	1	0	0
	%	0.9%	0.6%	0.6%	0.0%	0.0%
18	度数	2	2	1	0	0
	%	0.9%	1.2%	0.6%	0.0%	0.0%
19	度数	1	1	2	0	0
	%	0.5%	0.6%	1.3%	0.0%	0.0%
20	度数	7	9	10	0	3
	%	3.3%	5.5%	6.3%	0.0%	33.3%
21	度数	0	2	1	0	0
	%	0.0%	1.2%	0.6%	0.0%	0.0%
22	度数	1	0	0	0	0
	%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
24	度数	0	0	1	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%

25	度数	0	1	0	0	0
	%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
28	度数	0	0	1	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
29	度数	1	3	1	0	0
	%	0.5%	1.8%	0.6%	0.0%	0.0%
30	度数	1	0	3	2	0
	%	0.5%	0.0%	1.9%	8.3%	0.0%
32	度数	0	0	1	1	0
	%	0.0%	0.0%	0.6%	4.2%	0.0%
33	度数	0	1	1	0	0
	%	0.0%	0.6%	0.6%	0.0%	0.0%
35	度数	0	2	0	0	0
	%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%
40	度数	0	0	3	0	0
	%	0.0%	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%
43	度数	0	1	1	0	0
	%	0.0%	0.6%	0.6%	0.0%	0.0%
44	度数	1	0	0	0	0
	%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
45	度数	0	1	0	0	0
	%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
60	度数	0	1	0	0	0
	%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
66	度数	0	0	1	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
79	度数	0	1	0	0	0
	%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
88	度数	1	0	0	0	0
	%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
89	度数	1	0	0	0	0
	%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
90	度数	0	0	1	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
未記入／判別不可	度数	108	55	63	14	3
	%	50.2%	33.7%	39.9%	58.3%	33.3%

3.3 アルバイト内容

アルバイトの内容については、全学年において、“飲食（レストランなど）”と回答している学生が多かった。また、“家庭教師・塾講師”“IT関係”“学内（SAなど）”を行う学生は、学年が上がるごとに多くなる傾向になった。

			学年				
			2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可
Q3_3	1飲食 (レストランなど)	度数	44	33	20	2	1
		%	20.5%	20.2%	12.7%	8.3%	11.1%
	2物販 (コンビニなど)	度数	18	21	18	2	1
		%	8.4%	12.9%	11.4%	8.3%	11.1%
	3家庭教師・塾講師	度数	19	22	23	2	0
		%	8.8%	13.5%	14.6%	8.3%	0.0%
	4IT関係	度数	8	17	19	0	1
		%	3.7%	10.4%	12.0%	0.0%	11.1%
	5学内(SAなど)	度数	4	4	8	1	0
		%	1.9%	2.5%	5.1%	4.2%	0.0%
	6その他	度数	15	14	8	3	0
		%	7.0%	8.6%	5.1%	12.5%	0.0%
	未記入/判別不可	度数	107	52	62	14	6
		%	49.8%	31.9%	39.2%	58.3%	66.7%

3.4 アルバイト内容（その他）

省略

4. 昨年度（2021年4月～2022年3月）の生活パターンについて

4.1 通学日数

“昨年度、平均して週に何日大学に来ましたか。（オンライン授業期間をのぞく）”という質問に対し、回答を求めたところ、2年生は平均4.73日と3年生や4年生に比べ大学にきている日数が多かった。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可
Q4_1	度数	215	163	158	24	9
	平均値	4.73	4.14	3.43	3.04	3.43
	標準偏差	1.24	1.16	1.22	1.46	2.30

4.2 授業時間外での勉強時間

授業時間外の勉強時間は、4年生では、平均 2.38 時間と、他の学年よりも授業時間外に勉強する時間が長かった。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可
Q4_2	度数	215	163	158	24	9
	平均値	2.01	2.02	2.38	2.00	1.22
	標準偏差	1.32	1.21	1.50	1.17	.83

4.3 平均的な起床時間

全学年に共通して、7時～10時に起床している学生が多くことがわかった。しかし、中にはお昼前後に起床する学生もいた。

		学年						
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可		
Q4_3	0	度数	1	1	0	0	0	
	1	度数	0	1	0	0	0	
	2	度数	1	0	0	0	0	
	5	度数	5	2	1	0	0	
	6	度数	14	8	5	3	2	
	7	度数	63	34	22	3	2	
	8	度数	77	74	51	3	1	
	9	度数	31	18	36	3	1	
	10	度数	14	15	29	7	1	
	11	度数	0	4	4	1	1	
	12	度数	3	4	3	2	0	
	13	度数	0	0	1	0	0	
	14	度数	1	0	1	0	0	
	15	度数	0	0	1	0	0	
	16	度数	1	0	0	0	0	
		未記入/判別不可	度数	4	2	4	2	1

4.4 平均的な就寝時間

多くの学生が、22時～翌2時頃に就寝していることがわかった。しかし、昼頃に就寝する学生もいた。

		学年						
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不明		
Q4_4	0	度数	46	34	30	6	1	
	1	度数	47	51	40	3	0	
	2	度数	32	24	29	5	4	
	3	度数	4	7	7	2	0	
	4	度数	1	7	1	2	0	
	5	度数	1	0	3	0	0	
	6	度数	0	1	2	0	0	
	7	度数	0	1	0	0	0	
	8	度数	2	1	1	0	0	
	10	度数	0	0	0	0	2	
	11	度数	1	2	1	1	1	
	12	度数	17	5	8	2	1	
	13	度数	6	2	2	0	0	
	14	度数	3	1	1	0	0	
	16	度数	1	0	0	0	0	
	18	度数	1	0	0	0	0	
	22	度数	8	8	5	0	0	
	23	度数	36	13	17	2	0	
		未記入/判別不可	度数	9	6	11	1	0

4.5 平均的な運動回数

“昨年度、平均して週何回くらいスポーツなどの運動をしていましたか（体育の授業は除いて）”という質問に対し、2年生は1.25回、3年生は1.05回、4年生は1.19回という結果となった。留年生を除き、週に1回程度の運動を行っていることがわかった。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不明
Q4_5	度数	215	163	158	24	9
	平均値	1.25	1.05	1.19	.83	1.00
	標準偏差	1.26	1.45	1.55	.94	1.00

4.6 授業の理解度

“昨年度、受講した専門科目の授業のなかで、授業の内容をほぼ理解できたと思えるのは、全体の何割ぐらいの科目でしたか。”という質問に対し、5割ぐらいの科目は程理解していることがわかった。しかし、留年生の理解度は、4.52と低い値となった。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不明
Q4_6_1	度数	215	163	158	24	9
	平均値	5.65	5.29	5.55	4.52	2.67
	標準偏差	2.27	2.16	2.13	2.09	3.24

4.7 授業の出席率

授業に出席した割合について、留年生以外の学年では、8割以上出席していることが分かった。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不明
Q4_7_1	度数	215	163	158	24	9
	平均値	8.69	8.80	8.85	7.43	6.78
	標準偏差	2.04	1.61	1.37	2.11	3.31

4.8 学生生活の充実度

満足している学生は、2年生が最も多かった（149名）。一方で、満足していない学生についても、2年生の回答者が最も多かった（26名）。

			学年				
			2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不明
Q4_8	1とても満足している	度数	58	36	31	2	2
	2どちらかといえば満足している	度数	91	62	74	10	0
	3どちらともいえない	度数	33	35	21	5	2
	4どちらかといえば満足していない	度数	15	13	16	5	1
	5まったく満足していない	度数	11	10	9	1	3
	未記入/判別不可	度数	7	7	7	1	1

4.9 学生生活の満足度

各項目について、1.とても満足している、2.どちらかといえば満足している、3.どちらともいえない、4.どちらかといえば満足していない、5.まったく満足していない、の5段階で回答を求めた。その結果、全項目に共通して、満足もしているか否かについてはどちらともいえない学生が多いことがわかった。

		学年				未記入／判別不可
		2年生	3年生	4年生	留年生	
Q4_9_1	平均値	2.94	2.85	2.92	2.61	2.33
友人を得ること	標準偏差	1.32	1.43	1.35	1.59	1.80
Q4_9_2	平均値	2.95	2.79	2.99	2.57	3.22
知識・技術を身につけること	標準偏差	1.25	1.12	1.25	1.12	1.56
Q4_9_3	平均値	3.04	3.05	2.99	3.13	2.11
クラブ・サークル活動	標準偏差	1.33	1.41	1.35	1.62	1.36
Q4_9_4	平均値	2.99	2.75	2.88	2.65	2.78
自由な時間を持つこと	標準偏差	1.38	1.37	1.49	1.37	1.20
Q4_9_5	平均値	2.93	2.77	2.77	2.33	3.56
大学の施設・設備	標準偏差	1.26	1.10	1.10	1.01	1.51
Q4_9_6	平均値	2.96	2.91	2.84	2.48	3.43
授業の内容	標準偏差	1.09	1.01	.99	1.04	1.27
Q4_9_7	平均値	2.99	2.92	2.81	2.52	3.11
授業の形式 (オンライン授業)	標準偏差	1.25	1.09	1.24	1.34	1.17
Q4_9_8	平均値	2.96	2.86	2.92	2.50	2.89
授業の形式 (対面授業)	標準偏差	1.15	1.00	1.08	1.10	1.17
Q4_9_9	平均値	2.98	2.94	2.87	2.65	3.00
教授陣	標準偏差	1.08	.92	1.05	1.11	1.00
Q4_9_10	平均値	2.97	2.81	2.85	2.65	3.11
カリキュラム構成	標準偏差	1.09	.93	1.06	1.11	.93
Q4_9_11	平均値	2.88	2.89	2.90	2.86	3.00
奨学金制度	標準偏差	1.07	1.11	1.13	1.13	1.12
Q4_9_12	平均値	3.01	2.99	2.88	2.65	3.00
就職指導の体制	標準偏差	.80	.85	1.03	1.15	1.07
Q4_9_13	平均値	2.94	2.85	2.93	2.61	3.00
学生相談・保健室	標準偏差	1.04	.88	1.04	1.20	1.12

4.10 課外活動参加状況

課外活動へ参加したことがない学生が、2～4年生では50名程度いたことがわかった。参加している学生は、2年生が最も多く105名となっていた。

			学年				
			2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不明
Q4_10	1参加していた	度数	105	76	64	8	2
	2参加していたが活動していなかった	度数	28	23	27	4	3
	3参加していたがやめた	度数	17	6	13	6	1
	4参加したことがない	度数	55	50	46	4	2
	未記入/判別不可	度数	10	8	8	2	1

5. 現在のことについて

5.1 学部卒業後の進路

会津大学大学院への進学希望者は、2～3年生よりも、4年生が多かった。他大学への大学院新垣希望者は、学年が上がるほど少なくなっていた。

			学年				
			2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可
Q5_1	1会津大学の大学院に進学希望	度数	25	26	35	0	3
		%	11.6%	16.0%	22.2%	0.0%	33.3%
	2他大学の大学院に進学希望	度数	29	10	4	0	0
		%	13.5%	6.1%	2.5%	0.0%	0.0%
	3就職希望	度数	82	86	103	20	2
		%	38.1%	52.8%	65.2%	83.3%	22.2%
	4起業希望	度数	1	1	1	0	0
		%	0.5%	0.6%	0.6%	0.0%	0.0%
	5未定	度数	65	30	7	1	4
		%	30.2%	18.4%	4.4%	4.2%	44.4%
	6その他	度数	3	0	0	1	0
		%	1.4%	0.0%	0.0%	4.2%	0.0%
	未記入/判別不可	度数	10	10	8	2	0
		%	4.7%	6.1%	5.1%	8.3%	0.0%

5.2 学部卒業後の進路（その他）

省略

5.3 大学生活が進路を考える上で役立つか

学年が上がるごとに、大学生活が進路を考える上で役立っていると感じている学生の割合が多くなっていることがわかった。

			学年				
			2年生	3年生	4年生	留年生	未記入／判別不可
Q5_3	1 おおいに 役立っている	度数	58	26	42	5	2
		%	27.0%	16.0%	26.6%	20.8%	22.2%
	2 どちらかといえば 役立っている	度数	96	93	86	13	1
		%	44.7%	57.1%	54.4%	54.2%	11.1%
	3 どちらとも いえない	度数	41	31	14	4	3
		%	19.1%	19.0%	8.9%	16.7%	33.3%
	4 どちらかといえば 役立っていない	度数	8	6	2	0	1
		%	3.7%	3.7%	1.3%	0.0%	11.1%
	5 まったく 役立っていない	度数	5	4	3	1	1
		%	2.3%	2.5%	1.9%	4.2%	11.1%
未記入／判別不可	度数	7	3	11	1	1	
	%	3.3%	1.8%	7.0%	4.2%	11.1%	

5.4 役立った大学生活の内容

全学年において、最も役立った内容は、授業であると回答した学生が多かった。4年生や留年生は、バイトやインターン・シップなどの社会体験が、役立ったと回答した学生が多かった。

			学年				
			2年生	3年生	4年生	留年生	未記入／判別不可
Q5_4_1 授業	度数	111	77	76	12	1	
	%	72.1%	64.7%	59.4%	66.7%	33.3%	
Q5_4_2 教員との交流	度数	20	29	16	2	0	
	%	13.0%	24.4%	12.5%	11.1%	0.0%	
Q5_4_3 サークル活動	度数	42	34	35	4	0	
	%	27.3%	28.6%	27.3%	22.2%	0.0%	
Q5_4_4 大学が行う進路ガイ ダンスや就職相談などの進路支 援	度数	25	16	24	7	0	
	%	16.2%	13.4%	18.8%	38.9%	0.0%	
Q5_4_5 学内で行われる研究 者や産業人の講演会・セミナー	度数	20	9	4	1	0	
	%	13.0%	7.6%	3.1%	5.6%	0.0%	

Q5_4_6	バイトやインターン・シップなどの社会経験	度数	25	29	45	7	0
		%	16.2%	24.4%	35.2%	38.9%	0.0%
Q5_4_7	友人・社会人などさまざまな人との交流	度数	47	37	41	7	1
		%	30.5%	31.1%	32.0%	38.9%	33.3%
Q5_4_8	ネットでの情報収集・交換	度数	20	21	22	3	0
		%	13.0%	17.6%	17.2%	16.7%	0.0%

5.5 大学生生活で伸びた力について

5段階（1.おおいに伸びた 2.少しは伸びた 3.どちらともいえない 4.伸びなかった）で回答を求めたところ、「コンピュータを活用する力」について伸びたと感じる学生が、全学年に共通して多いことが分かった。

		学年					未記入／判別不可
		2年生	3年生	4年生	留年生		
Q5_5_1	文章を書く力	2.45	2.62	2.45	2.33	3.00	
	標準偏差	.90	.80	.87	.73	.71	
Q5_5_2	文章を読む力	2.52	2.52	2.34	2.26	2.86	
	標準偏差	.84	.80	.90	.81	.69	
Q5_5_3	人と協力してものごとを進める力	2.51	2.44	2.28	2.57	2.43	
	標準偏差	.86	.87	.96	.84	.98	
Q5_5_4	人間関係を作る力	2.45	2.48	2.33	2.52	2.57	
	標準偏差	.94	.93	.95	.95	1.13	
Q5_5_5	自分の意見を述べる力	2.46	2.43	2.26	2.50	2.88	
	標準偏差	.88	.87	.86	.80	1.25	
Q5_5_6	筋道を立てて考える力	2.39	2.51	2.24	2.30	3.00	
	標準偏差	.90	.82	.91	.82	.89	
Q5_5_7	コンピュータを活用する力	2.03	2.01	2.01	2.09	2.63	
	標準偏差	.98	.98	1.10	.95	.92	
Q5_5_8	健康を保つ力	2.62	2.71	2.58	2.59	2.14	
	標準偏差	1.00	1.00	1.01	.91	.90	
Q5_5_9	目標に向かって努力する力	2.50	2.53	2.34	2.18	2.87	
	標準偏差	.89	.89	.85	.66	1.13	

5.6 大学生生活で伸びた力について（その他）

省略

6. PC等の使用状況等について

6.1 インターネット依存

「PC・スマートフォン等でインターネットに接続する時間が長くなり、日常生活に支障が出てきても、ネットから離れにくいということがありますか。」という質問に対し、よくあると回答した学生が、2年生で29名、3年生で17名、4年生で13名であった。

		学年					
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不明	
Q6_1	1まったくない	度数	21	19	14	2	0
		%	9.8%	11.7%	8.9%	8.3%	0.0%
	2あまりない	度数	71	59	43	6	3
		%	33.0%	36.2%	27.2%	25.0%	33.3%
	3ときどきある	度数	87	59	80	10	3
		%	40.5%	36.2%	50.6%	41.7%	33.3%
	4よくある	度数	29	17	13	4	2
		%	13.5%	10.4%	8.2%	16.7%	22.2%
	未記入/判別不可	度数	7	9	8	2	1
		%	3.3%	5.5%	5.1%	8.3%	11.1%

6.2 情報端末の保有状況

全学年に共通して、90%以上の学生がスマートフォンを持っていることが分かった。また、留年生以外の2～4年生は、ノート型のPCを90%以上の学生が保有していた。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不明
PCノート	度数	199	151	152	21	7
	%	92.6%	92.6%	96.2%	87.5%	77.8%
PC (デスクトップ)	度数	64	60	53	8	3
	%	29.8%	36.8%	33.5%	33.3%	33.3%
タブレット	度数	79	56	73	7	2
	%	36.7%	34.4%	46.2%	29.2%	22.2%
スマートフォン	度数	202	157	144	22	6
	%	94.0%	96.3%	91.1%	91.7%	66.7%
その他	度数	5	6	3	0	1
	%	2.3%	3.7%	1.9%	0.0%	11.1%
未記入/判別不可	度数	0	0	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

6.3 自宅のネットワーク環境

自宅のネットワーク環境について、全学年に共通して60%以上の学生が光回線（フレッツ光など）を利用していた。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不明
1光回線 (フレッツ光など)	度数	140	114	106	19	6
	%	65.1%	69.9%	67.1%	79.2%	66.7%
2WiMAXなど (スマホ以外のWiFi・ モバイルルーター)	度数	38	20	32	3	1
	%	17.7%	12.3%	20.3%	12.5%	11.1%
3スマホのテザリング	度数	7	5	3	0	1
	%	3.3%	3.1%	1.9%	0.0%	11.1%
4ネットワーク環境はある が上記のどれか わからない	度数	18	18	11	1	0
	%	8.4%	11.0%	7.0%	4.2%	0.0%
5ネットワーク環境はない	度数	2	1	1	0	0
	%	0.9%	0.6%	0.6%	0.0%	0.0%
未記入/判別不可	度数	10	5	5	1	1
	%	4.7%	3.1%	3.2%	4.2%	11.1%

7. 食生活について

7.1 摂取状況

「3 食きちんと食べていましたか」という質問に対し、毎食きちんと食べていた学生の割合は、2年生が最も多く（32.1%）、学年があるごとに低下していることが分かった。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不明
1毎日きちんと 食べていた	度数	69	40	35	3	4
	%	32.1%	24.5%	22.2%	12.5%	44.4%
2週1~2回どれかを 食べない時があった	度数	53	37	33	8	0
	%	24.7%	22.7%	20.9%	33.3%	0.0%
3週3~4回どれかを 食べない時があった	度数	34	35	43	4	0
	%	15.8%	21.5%	27.2%	16.7%	0.0%
4毎日きちんと 食べていないかった	度数	50	43	42	8	5
	%	23.3%	26.4%	26.6%	33.3%	55.6%
未記入/判別不可	度数	9	8	5	1	0
	%	4.2%	4.9%	3.2%	4.2%	0.0%

7.2 欠食状況

全学年に共通して、欠食率が高いのは朝食であった。特に、4年生では70.3%、留年生では75.0%と欠食率が70%をこえていた。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不明
1朝食	度数	128	112	111	18	4
	%	59.5%	68.7%	70.3%	75.0%	44.4%
2昼食	度数	14	11	10	3	1
	%	6.5%	6.7%	6.3%	12.5%	11.1%
3夕食	度数	7	4	1	0	1
	%	3.3%	2.5%	0.6%	0.0%	11.1%
未記入/判別不可	度数	66	36	36	3	3
	%	30.7%	22.1%	22.8%	12.5%	33.3%

7.3 就寝前の食事

就寝前2時間以内に食事をとることについて、毎日ある学生が10%程度いることがわかった。4年生は、就寝前2時間以内に食事をとることが、週に1回以上ある学生が全体の70%以上(117名)いることがわかった。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不明
1毎日ある	度数	23	21	14	2	0
	%	10.7%	12.9%	8.9%	8.3%	0.0%
2週3~4回ある	度数	50	36	48	7	4
	%	23.3%	22.1%	30.4%	29.2%	44.4%
3週1~2回ある	度数	78	63	55	7	2
	%	36.3%	38.7%	34.8%	29.2%	22.2%
4まったくない	度数	49	33	28	5	2
	%	22.8%	20.2%	17.7%	20.8%	22.2%
未記入/判別不可	度数	15	10	13	3	1
	%	7.0%	6.1%	8.2%	12.5%	11.1%

7.4 食事のバランス

食事を取るにあたって、主食、主菜、副菜のバランスがとれている学生は、学年が上がるごとに減っている。特に、4年生では、41.1%（65名）がバランスのとれた食事を摂っており、53.2%（84名）が、バランスのとれていない食事をしてきた。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不明
1とれている	度数	25	9	18	3	0
	%	11.6%	5.5%	11.4%	12.5%	0.0%
2どちらかといえばとれている	度数	77	53	47	6	4
	%	35.8%	32.5%	29.7%	25.0%	44.4%
3どちらかといえばとれていない	度数	72	61	64	10	0
	%	33.5%	37.4%	40.5%	41.7%	0.0%
4まったくとれていない	度数	33	33	20	3	5
	%	15.3%	20.2%	12.7%	12.5%	55.6%
未記入/判別不可	度数	8	7	9	2	0
	%	3.7%	4.3%	5.7%	8.3%	0.0%

7.5 昼食内容

各学年の90%にあたる学生は、主食をとっていた。しかし、牛乳・乳製品、果物を摂っていない学生が、各学年で50%以上いることがわかった。

		学年					
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不明	
Q7_5_1 主食	1食べて(飲んで)いる	度数	195	155	140	22	9
		%	90.7%	95.1%	88.6%	91.7%	100.0%
ご飯 パン そば うどん カップめん	2食べて(飲んで)いない	度数	7	4	5	0	0
		%	3.3%	2.5%	3.2%	0.0%	0.0%
	未記入/判別不可	度数	13	4	13	2	0
		%	6.0%	2.5%	8.2%	8.3%	0.0%
Q7_5_2 副菜	1食べて(飲んで)いる	度数	101	66	81	12	4
		%	47.0%	40.5%	51.3%	50.0%	44.4%
サラダ 野菜の煮物	2食べて(飲んで)いない	度数	92	88	65	10	5
		%	42.8%	54.0%	41.1%	41.7%	55.6%
野菜炒め 煮豆など	未記入/判別不可	度数	22	9	12	2	0
		%	10.2%	5.5%	7.6%	8.3%	0.0%
Q7_5_3 主菜	1食べて(飲んで)いる	度数	145	109	114	17	5
		%	67.4%	66.9%	72.2%	70.8%	55.6%
豆腐 納豆 卵 肉 魚	2食べて(飲んで)いない	度数	53	46	32	3	2
		%	24.7%	28.2%	20.3%	12.5%	22.2%

	未記入／判別不可	度数	17	8	12	4	2
		%	7.9%	4.9%	7.6%	16.7%	22.2%
Q7_5_4	1食べて(飲んで)	度数	71	55	60	8	5
牛乳 乳製品	いる	%	33.0%	33.7%	38.0%	33.3%	55.6%
牛乳	2食べて(飲んで)	度数	124	95	85	11	4
チーズ	いない	%	57.7%	58.3%	53.8%	45.8%	44.4%
ヨーグルト	未記入／判別不可	度数	20	13	13	5	0
		%	9.3%	8.0%	8.2%	20.8%	0.0%
Q7_5_5	1食べて(飲んで)	度数	45	23	35	3	3
果物	いる	%	20.9%	14.1%	22.2%	12.5%	33.3%
	2食べて(飲んで)	度数	148	127	113	15	6
	いない	%	68.8%	77.9%	71.5%	62.5%	66.7%
	未記入／判別不可	度数	22	13	10	6	0
		%	10.2%	8.0%	6.3%	25.0%	0.0%
Q7_5_6	1食べて(飲んで)	度数	105	86	71	13	2
お菓子・嗜好飲料	いる	%	48.8%	52.8%	44.9%	54.2%	22.2%
	2食べて(飲んで)	度数	89	66	71	6	6
	いない	%	41.4%	40.5%	44.9%	25.0%	66.7%
	未記入／判別不可	度数	21	11	16	5	1
		%	9.8%	6.7%	10.1%	20.8%	11.1%
Q7_5_7	1食べて(飲んで)	度数	186	145	136	20	8
水分	いる	%	86.5%	89.0%	86.1%	83.3%	88.9%
	2食べて(飲んで)	度数	15	10	9	3	1
	いない	%	7.0%	6.1%	5.7%	12.5%	11.1%
	未記入／判別不可	度数	14	8	13	1	0
		%	6.5%	4.9%	8.2%	4.2%	0.0%

7.6 朝食券の購入状況

ほぼ毎月購入していた学生は、2年生で38名（17.7%）と他の学年よりも多かった。1回以上購入したことのある学生数も、2年生（96名、44.7%）が他の学年よりも多いことがわかった。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可
1ほぼ毎月 購入していた	度数	38	6	6	1	0
	%	17.7%	3.7%	3.8%	4.2%	0.0%
2何度か購入した	度数	40	26	29	1	3
	%	18.6%	16.0%	18.4%	4.2%	33.3%
3 1度だけ購入した	度数	18	6	17	3	0
	%	8.4%	3.7%	10.8%	12.5%	0.0%
4購入したことが ない	度数	107	116	96	18	5
	%	49.8%	71.2%	60.8%	75.0%	55.6%
未記入/判別不可	度数	12	9	10	1	1
	%	5.6%	5.5%	6.3%	4.2%	11.1%

8. 生活について

8.1 助け合う友人の有無

助け合う友人について、2～4年生はいると回答した学生が80%以上であったが、留年生は54.2%と低い割合になっていた。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可
1いる	度数	189	136	134	13	6
	%	87.9%	83.4%	84.8%	54.2%	66.7%
2いない	度数	18	19	16	9	2
	%	8.4%	11.7%	10.1%	37.5%	22.2%
未記入/判別不可	度数	8	8	8	2	1
	%	3.7%	4.9%	5.1%	8.3%	11.1%

8.2 相談できる友人の有無

相談できる友人について、2～4年生は70%以上がいると回答したが、留年生は62.5%にとどまった。相談できる友人がいない学生は、学年が上がるごとに減る傾向にあった。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可
1いる	度数	165	125	120	15	5
	%	76.7%	76.7%	75.9%	62.5%	55.6%
2いない	度数	37	31	27	6	3
	%	17.2%	19.0%	17.1%	25.0%	33.3%
未記入/判別不可	度数	13	7	11	3	1
	%	6.0%	4.3%	7.0%	12.5%	11.1%

8.3 不安や悩み

不安や悩みがある学生は、2～4年生で40%程度、留年生で54.2%いることがわかった。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可
1ある	度数	87	69	61	13	7
	%	40.5%	42.3%	38.6%	54.2%	77.8%
2ない	度数	112	86	82	8	2
	%	52.1%	52.8%	51.9%	33.3%	22.2%
未記入/判別不可	度数	16	8	15	3	0
	%	7.4%	4.9%	9.5%	12.5%	0.0%

8.4 不安や悩みの内容

全学年に共通して、学業や進路に関する悩みを持っている学生が多いことがわかった。特に、就職や将来の進路に関する悩みは、留年生（41.7%）と4年生（31.6%）の割合が他の学年に比べて高かった。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可
Q8_4_1 学業	度数	63	41	26	7	3
	%	29.3%	25.2%	16.5%	29.2%	33.3%
Q8_4_2 健康	度数	28	15	10	4	2
	%	13.0%	9.2%	6.3%	16.7%	22.2%
Q8_4_3 性格・能力	度数	32	25	15	5	2
	%	14.9%	15.3%	9.5%	20.8%	22.2%
Q8_4_4 人生観	度数	31	20	16	4	5
	%	14.4%	12.3%	10.1%	16.7%	55.6%

Q8_4_5	度数	9	8	1	0	0
課外活動	%	4.2%	4.9%	0.6%	0.0%	0.0%
Q8_4_6	度数	51	50	50	10	4
就職や将来の進路	%	23.7%	30.7%	31.6%	41.7%	44.4%
Q8_4_7	度数	19	12	4	2	3
友人等の対人関係のこと	%	8.8%	7.4%	2.5%	8.3%	33.3%
Q8_4_8	度数	5	4	4	0	0
異性の問題	%	2.3%	2.5%	2.5%	0.0%	0.0%
Q8_4_9	度数	0	2	4	1	0
性の問題	%	0.0%	1.2%	2.5%	4.2%	0.0%
Q8_4_10	度数	7	13	9	4	2
経済問題 (家計、学費、ローン)	%	3.3%	8.0%	5.7%	16.7%	22.2%
Q8_4_11	度数	2	3	5	3	1
家族や家庭内のこと	%	0.9%	1.8%	3.2%	12.5%	11.1%
Q8_4_12	度数	5	3	2	2	0
その他	%	2.3%	1.8%	1.3%	8.3%	0.0%

8.5 喫煙状況

全学年に共通して、喫煙していない学生が80%以上であった。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可
1はい	度数	3	3	9	2	0
	%	1.4%	1.8%	5.7%	8.3%	0.0%
2いいえ	度数	198	155	134	21	8
	%	92.1%	95.1%	84.8%	87.5%	88.9%
未記入/判別不可	度数	14	5	15	1	1
	%	6.5%	3.1%	9.5%	4.2%	11.1%

8.6 飲酒状況

飲酒をしている学生は、2年生では18.6%であるが、それ以外の学年では、50%以上の学生が飲酒をしていた。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可
1はい	度数	40	104	84	13	2
	%	18.6%	63.8%	53.2%	54.2%	22.2%
2いいえ	度数	163	49	61	10	6
	%	75.8%	30.1%	38.6%	41.7%	66.7%
未記入/判別不可	度数	12	10	13	1	1
	%	5.6%	6.1%	8.2%	4.2%	11.1%

8.7 体重のコントロール

自分の体重を認識し、意識的に体重をコントロールしている学生は、各学年で30~40%であった。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可
1はい	度数	84	56	56	8	3
	%	39.1%	34.4%	35.4%	33.3%	33.3%
2いいえ	度数	120	98	92	14	5
	%	55.8%	60.1%	58.2%	58.3%	55.6%
未記入/判別不可	度数	11	9	10	2	1
	%	5.1%	5.5%	6.3%	8.3%	11.1%

8.8 体力

体力に余裕がある学生は、各学年の30~40%程度の学生である。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可
1体力には充分 余裕がある	度数	11	9	17	2	1
	%	5.1%	5.5%	10.8%	8.3%	11.1%
2体力にはある程度 余裕がある	度数	60	43	47	8	3
	%	27.9%	26.4%	29.7%	33.3%	33.3%
3体力にはあまり 余裕がない	度数	91	62	49	9	1
	%	42.3%	38.0%	31.0%	37.5%	11.1%
4体力にはまったく 余裕がない	度数	38	44	32	3	3
	%	17.7%	27.0%	20.3%	12.5%	33.3%
未記入/判別不可	度数	15	5	13	2	1
	%	7.0%	3.1%	8.2%	8.3%	11.1%

8.9 違法薬物について

身近に違法薬物を使った人がいたかという質問に対し、いいえと回答した学生が90%以上であった。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可
2いいえ	度数	206	157	147	22	9
	%	95.8%	96.3%	93.0%	91.7%	100.0%
未記入/判別不可	度数	9	6	11	2	0
	%	4.2%	3.7%	7.0%	8.3%	0.0%

8.10 違法薬物の購入や体験

違法薬物の購入や体験を誘われたことについて、いいえと回答した学生が90%以上であった。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可
2いいえ	度数	206	153	145	22	8
	%	95.8%	93.9%	91.8%	91.7%	88.9%
未記入/判別不可	度数	9	10	13	2	1
	%	4.2%	6.1%	8.2%	8.3%	11.1%

8.11 受動喫煙の害

受動喫煙の害について、全学年において85%の学生が知っていると回答した。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可
1よく知っている	度数	128	91	100	12	2
	%	59.5%	55.8%	63.3%	50.0%	22.2%
2少し知っている	度数	69	54	43	10	3
	%	32.1%	33.1%	27.2%	41.7%	33.3%
3知らない	度数	9	5	3	1	1
	%	4.2%	3.1%	1.9%	4.2%	11.1%
未記入/判別不可	度数	9	13	12	1	3
	%	4.2%	8.0%	7.6%	4.2%	33.3%

8.12 身体面の健康

身体面の健康について、全学年において70～80%の学生が健康であると回答した。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可
1健康である	度数	61	42	52	6	2
	%	28.4%	25.8%	32.9%	25.0%	22.2%
2ほぼ健康である	度数	113	88	67	12	4
	%	52.6%	54.0%	42.4%	50.0%	44.4%
3あまり健康ではない	度数	21	20	22	4	1
	%	9.8%	12.3%	13.9%	16.7%	11.1%
4健康ではない	度数	6	4	4	0	1
	%	2.8%	2.5%	2.5%	0.0%	11.1%
未記入/判別不可	度数	14	9	13	2	1
	%	6.5%	5.5%	8.2%	8.3%	11.1%

8.13 精神面の健康

精神面の健康について、全学年において70%程度の学生が健康であると回答した。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可
1健康である	度数	62	48	49	3	2
	%	28.8%	29.4%	31.0%	12.5%	22.2%
2ほぼ健康である	度数	99	70	70	13	3
	%	46.0%	42.9%	44.3%	54.2%	33.3%
3あまり健康ではない	度数	32	29	18	3	2
	%	14.9%	17.8%	11.4%	12.5%	22.2%
4健康ではない	度数	12	8	10	4	1
	%	5.6%	4.9%	6.3%	16.7%	11.1%
未記入/判別不可	度数	10	8	11	1	1
	%	4.7%	4.9%	7.0%	4.2%	11.1%

8.14 ハラスメント

“この一年間で、大学関係者（教職員、院生・学生）からハラスメント（セクハラ、パワハラ、アカハラ等）を受けたことがありますか。”という質問に対し、はいと回答した学生が、2年生で1名、4年生で4名いた。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可
1はい	度数	1	0	4	0	0
	%	0.5%	0.0%	2.5%	0.0%	0.0%
2いいえ	度数	202	156	144	21	8
	%	94.0%	95.7%	91.1%	87.5%	88.9%
未記入/判別不可	度数	12	7	10	3	1
	%	5.6%	4.3%	6.3%	12.5%	11.1%

8.15 ハラスメント相談

ハラスメントの相談をしたかについて、はいと回答したのは、4年生（1名）だけであった。

		学年			
		2年生	3年生	4年生	留年生
1 はい	度数	0	0	1	0
	%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%
2 いいえ	度数	0	0	3	0
	%	0.0%	0.0%	75.0%	0.0%
未記入/判別不可	度数	1	0	0	0
	%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

8.16 ハラスメント相談しない理由

相談しなかった理由について、誰に相談したらいいかわからなかったからと回答した学生が1名、たいしたことではないからと回答した学生が1名だった。

		学年			
		2年生	3年生	4年生	留年生
1 誰に相談していいかわからなかったから	度数	0	0	1	0
	%	0.0%	0	33.0%	0
2 たいしたことではないから	度数	0	0	2	0
	%	0.0%	0	66.7%	0
未記入/判別不可	度数	1	0	0	0
	%	100.0%	0	0.0%	0

8.17 ハラスメント相談しない理由（その他）

省略

8.18 ハラスメント相談員制度の認知

ハラスメント相談員制度について知っている学生は、各学年において10%に満たなかった。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可
1知っている	度数	8	9	6	2	1
	%	3.7%	5.5%	3.8%	8.3%	11.1%
2知らない	度数	197	145	139	20	7
	%	91.6%	89.0%	88.0%	83.3%	77.8%
未記入/判別不可	度数	10	9	13	2	1
	%	4.7%	5.5%	8.2%	8.3%	11.1%

8.19 ハラスメント相談員への相談希望

ハラスメントを受けた場合、ハラスメント相談員への相談を希望する学生は、1年生が126名（58.6%）と最も多かった。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可
1相談する	度数	126	89	77	15	2
	%	58.6%	54.6%	48.7%	62.5%	22.2%
2相談しない	度数	79	67	67	7	5
	%	36.7%	41.1%	42.4%	29.2%	55.6%
未記入/判別不可	度数	10	7	14	2	2
	%	4.7%	4.3%	8.9%	8.3%	22.2%

8.20 新型コロナウイルス感染症の心配

新型コロナウイルス感染症の心配について、各学年において心配している学生は、心配している学生が50%程度いることがわかった。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可
1 まったく心配していない	度数	14	15	30	1	2
	%	6.5%	9.2%	19.0%	4.2%	22.2%
2 あまり心配していない	度数	59	42	37	4	1
	%	27.4%	25.8%	23.4%	16.7%	11.1%
3 少し心配している	度数	103	74	60	11	4
	%	47.9%	45.4%	38.0%	45.8%	44.4%
4 とても心配している	度数	29	27	18	5	1
	%	13.5%	16.6%	11.4%	20.8%	11.1%
未記入/判別不可	度数	10	5	13	3	1
	%	4.7%	3.1%	8.2%	12.5%	11.1%

8.21 新型コロナウイルス感染対策

全学年に共通して、最も行っている対策法は、マスクの着用であった。また、次に多かった対策法は、手洗いや手指のアルコール消毒であった。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可
1 外出の際には、マスクの着用（咳エチケット）などの対策をしている	度数	192	152	142	23	8
	%	89.3%	93.3%	89.9%	95.8%	88.9%
2 石けんによる手洗いや手指消毒用アルコールによる消毒を行っている	度数	161	138	105	20	6
	%	74.9%	84.7%	66.5%	83.3%	66.7%
3 なるべく人が多く集まる場所へは行かないようにしている	度数	126	109	85	11	5
	%	58.6%	66.9%	53.8%	45.8%	55.6%
4 新型コロナウイルス関連の情報に注意している	度数	100	71	71	13	1
	%	46.5%	43.6%	44.9%	54.2%	11.1%
5 それ以外の対策をしている（詳細を記入）	度数	2	1	2	0	0
	%	0.9%	0.6%	1.3%	0.0%	0.0%
6 対策をしていない	度数	2	5	1	1	2
	%	0.9%	3.1%	0.6%	4.2%	22.2%

9. 学生相談室及び保健室について

9.1 相談する人の有無

困ったときに相談する人について、各学年において、70%以上の学生が相談できる人がいると回答した。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可
1はい	度数	167	131	125	17	5
	%	77.7%	80.4%	79.1%	70.8%	55.6%
2いいえ	度数	36	23	20	4	4
	%	16.7%	14.1%	12.7%	16.7%	44.4%
未記入/判別不可	度数	12	9	13	3	0
	%	5.6%	5.5%	8.2%	12.5%	0.0%

9.2 学生相談室の存在認識

学生相談室があることを知っている学生は、各学年において80%以上いることがわかった。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可
1はい	度数	181	142	135	20	6
	%	84.2%	87.1%	85.4%	83.3%	66.7%
2いいえ	度数	18	14	13	2	2
	%	8.4%	8.6%	8.2%	8.3%	22.2%
未記入/判別不可	度数	16	7	10	2	1
	%	7.4%	4.3%	6.3%	8.3%	11.1%

9.3 学生相談室の場所認識

学生相談室の場所を知っている学生は、学年が上がるごとに知っている学生の割合が高くなっていった。4年生と留年生においては、55%以上だった。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可
1はい	度数	92	79	87	14	7
	%	42.8%	48.5%	55.1%	58.3%	77.8%
2いいえ	度数	104	76	56	6	1
	%	48.4%	46.6%	35.4%	25.0%	11.1%
未記入/判別不可	度数	19	8	15	4	1
	%	8.8%	4.9%	9.5%	16.7%	11.1%

9.4 学生相談室の利用希望

学生相談室の利用を希望する学生は、1年生が最も多く145名（67.4%）であった。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可
1はい	度数	145	96	93	15	5
	%	67.4%	58.9%	58.9%	62.5%	55.6%
2いいえ	度数	54	60	50	8	2
	%	25.1%	36.8%	31.6%	33.3%	22.2%
未記入/判別不可	度数	16	7	15	1	2
	%	7.4%	4.3%	9.5%	4.2%	22.2%

9.5 オンライン講座について

自己理解やストレスケアに関するオンライン講座に興味がある学生は、留年生では45.8%（11名）であった。2～4年生については20～30%の学生が、興味があると回答していた。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可
1はい	度数	62	33	44	11	4
	%	28.8%	20.2%	27.8%	45.8%	44.4%
2いいえ	度数	134	123	102	10	3
	%	62.3%	75.5%	64.6%	41.7%	33.3%
未記入/判別不可	度数	19	7	12	3	2
	%	8.8%	4.3%	7.6%	12.5%	22.2%

9.6 保健室の存在認識

各学年において、85%以上の学生が、保健室があることを知っていた。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可
1はい	度数	197	148	135	22	9
	%	91.6%	90.8%	85.4%	91.7%	100.0%
2いいえ	度数	4	4	2	0	0
	%	1.9%	2.5%	1.3%	0.0%	0.0%
未記入/判別不可	度数	14	11	21	2	0
	%	6.5%	6.7%	13.3%	8.3%	0.0%

9.7 保健室の場所認識

各学年において、80%以上の学生が保健室の場所を知っていた。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可
1はい	度数	188	135	137	20	7
	%	87.4%	82.8%	86.7%	83.3%	77.8%
2いいえ	度数	13	20	7	0	0
	%	6.0%	12.3%	4.4%	0.0%	0.0%
未記入/判別不可	度数	14	8	14	4	2
	%	6.5%	4.9%	8.9%	16.7%	22.2%

9.8 保健室の開室時間

保健室の開室時間について、2～4年生において約60%以上の学生が知らないと回答した。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可
1はい	度数	64	37	46	12	3
	%	29.8%	22.7%	29.1%	50.0%	33.3%
2いいえ	度数	127	114	98	9	6
	%	59.1%	69.9%	62.0%	37.5%	66.7%
未記入/判別不可	度数	24	12	14	3	0
	%	11.2%	7.4%	8.9%	12.5%	0.0%

9.9 体組成計による健康管理

保健室の体組成計を使って、意識的に健康管理したいと回答した学生は、2年生が93名(43.3%)と最も多かった。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可
1はい	度数	93	40	63	9	2
	%	43.3%	24.5%	39.9%	37.5%	22.2%
2いいえ	度数	107	113	85	14	5
	%	49.8%	69.3%	53.8%	58.3%	55.6%
未記入/判別不可	度数	15	10	10	1	2
	%	7.0%	6.1%	6.3%	4.2%	22.2%

10. 修学支援室・就職支援室について

10.1 修学支援室と就職支援室の違い

修学支援室と就職支援室の違いについて知っている学生は、留年生で 87.5% (21 名)、4 年生で 121 名 (76.6%) であった。

		学年				
		2 年生	3 年生	4 年生	留年生	未記入/判別不可
1はい	度数	116	93	121	21	5
	%	54.0%	57.1%	76.6%	87.5%	55.6%
2いいえ	度数	81	55	20	2	3
	%	37.7%	33.7%	12.7%	8.3%	33.3%
未記入/判別不可	度数	18	15	17	1	1
	%	8.4%	9.2%	10.8%	4.2%	11.1%

10.2 修学支援室の存在認識

各学年において修学支援室があることを知っている学生は、80%以上いることがわかった。

		学年				
		2 年生	3 年生	4 年生	留年生	未記入/判別不可
1はい	度数	176	140	137	21	7
	%	81.9%	85.9%	86.7%	87.5%	77.8%
2いいえ	度数	17	12	6	0	1
	%	7.9%	7.4%	3.8%	0.0%	11.1%
未記入/判別不可	度数	22	11	15	3	1
	%	10.2%	6.7%	9.5%	12.5%	11.1%

10.3 修学支援室の場所認識

各学年において修学支援室の場所を知っている学生は、60%以上いることがわかった。

		学年				
		2 年生	3 年生	4 年生	留年生	未記入/判別不可
1はい	度数	133	98	116	18	5
	%	61.9%	60.1%	73.4%	75.0%	55.6%
2いいえ	度数	58	50	27	3	1
	%	27.0%	30.7%	17.1%	12.5%	11.1%
未記入/判別不可	度数	24	15	15	3	3
	%	11.2%	9.2%	9.5%	12.5%	33.3%

10.4 修学支援室の利用状況

修学支援室を使用したことがある学生は、留年生が18名（75.0%）、4年生が86名（54.4%）であった。2年生は、利用した学生と利用しなかった学生が約半数ずつであった。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可
1はい	度数	96	69	86	18	5
	%	44.7%	42.3%	54.4%	75.0%	55.6%
2いいえ	度数	96	82	57	4	4
	%	44.7%	50.3%	36.1%	16.7%	44.4%
未記入/判別不可	度数	23	12	15	2	0
	%	10.7%	7.4%	9.5%	8.3%	0.0%

10.5 修学支援室の利用希望

修学支援室を利用したいと思う学生は、2年生が116名（54.0%）、3年生が85名（52.1%）であった。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可
1はい	度数	116	85	69	8	5
	%	54.0%	52.1%	43.7%	33.3%	55.6%
2いいえ	度数	71	70	73	14	3
	%	33.0%	42.9%	46.2%	58.3%	33.3%
未記入/判別不可	度数	28	8	16	2	1
	%	13.0%	4.9%	10.1%	8.3%	11.1%

10.6 就職支援室の存在認識

就職支援室があることを知っている学生は、留年生が22名（91.7%）、4年生が142名（89.9%）であり、ほとんどの学生が知っていた。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可
1はい	度数	148	111	142	22	5
	%	68.8%	68.1%	89.9%	91.7%	55.6%
2いいえ	度数	46	39	4	1	3
	%	21.4%	23.9%	2.5%	4.2%	33.3%
未記入/判別不可	度数	21	13	12	1	1
	%	9.8%	8.0%	7.6%	4.2%	11.1%

10.7 就職支援室の場所認識

就職支援室の場所について、4年生では137名（86.7%）が、留年生では22名（91.7%）が知っていると回答した。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可
1はい	度数	95	75	137	22	2
	%	44.2%	46.0%	86.7%	91.7%	22.2%
2いいえ	度数	97	77	9	0	5
	%	45.1%	47.2%	5.7%	0.0%	55.6%
未記入/判別不可	度数	23	11	12	2	2
	%	10.7%	6.7%	7.6%	8.3%	22.2%

10.8 就職支援室の利用状況

就職支援室の利用について、4年生では112名（70.9%）いるのに対し、3年生では21名（12.9%）、2年生では30名（14.0%）であった。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可
1はい	度数	30	21	112	13	2
	%	14.0%	12.9%	70.9%	54.2%	22.2%
2いいえ	度数	163	128	28	7	4
	%	75.8%	78.5%	17.7%	29.2%	44.4%
未記入/判別不可	度数	22	14	18	4	3
	%	10.2%	8.6%	11.4%	16.7%	33.3%

10.9 就職支援室の利用希望

就職支援室の利用を希望しない学生は、学年が上がるごとに減っていることが分かった。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可
1はい	度数	131	117	108	19	4
	%	60.9%	71.8%	68.4%	79.2%	44.4%
2いいえ	度数	60	38	30	4	4
	%	27.9%	23.3%	19.0%	16.7%	44.4%
未記入/判別不可	度数	24	8	20	1	1
	%	11.2%	4.9%	12.7%	4.2%	11.1%

10.10 困った際の対処方法

全学年において、困ったときの対処方法で最も多かったのは、先輩や友人に相談することであった。また、先生に相談する学生も2～4年生では50名以上いることがわかった。

		学年				
		2年生	3年生	4年生	留年生	未記入/判別不可
Q10_10_1	度数	63	60	58	13	3
先生に相談する	%	29.3%	36.8%	36.7%	54.2%	33.3%
Q10_10_2	度数	168	129	123	13	7
先輩や友人に相談する	%	78.1%	79.1%	77.8%	54.2%	77.8%
Q10_10_3	度数	36	26	17	5	2
修学支援室を利用する	%	16.7%	16.0%	10.8%	20.8%	22.2%
Q10_10_4	度数	12	6	8	1	0
学生課に相談する	%	5.6%	3.7%	5.1%	4.2%	0.0%
Q10_10_5	度数	18	9	7	3	1
何もしない	%	8.4%	5.5%	4.4%	12.5%	11.1%
Q10_10_6	度数	6	9	4	0	0
勉強や研究のことでは困らない	%	2.8%	5.5%	2.5%	0.0%	0.0%
Q10_10_7	度数	6	3	4	0	1
その他	%	2.8%	1.8%	2.5%	0.0%	11.1%

IV. 考察

今回の調査は、会津大学の教育・学生支援環境を点検・整備するための資料を得るために、会津大学生の生活と意識・行動を多面的に分析することを目的とした。学生の回答から、生活パターンと卒業後の進路に着目し、考察を行うこととする。

1. 生活パターン

学生の睡眠について、就寝時刻が日をまたいでいる学生が全学年に共通していた。また、起床時刻については、ばらつきはあるものの、1限開始時刻（9時）までに起床する学生が多かった。就寝時刻や起床時刻については、これまでの年報でも報告してきたが、合計睡眠時間を調査できていない。1日にどのくらいの睡眠時間を確保できているかについて調査することは、学生の心身の健康についてもより詳細に検討できると考えられる。特に、1・2年生の場合には、1限（9時）から10限（18:40）まで講義が入っている学生もおり、授業以外での勉強時間が1日あたり2時間となると、就寝時刻は必然的に遅くなる。授業には80%以上出席し、授業以外の勉強時間を確保しても、理解している授業は履修している全科目のうち半数程度ということが明らかになった。今後、授業の理解度を高めるために、大学として支援方法、本人の時間の使い方や学習方法を再考することが必要であろう。

2. 卒業後の進路について

今回の調査では、卒業後の進路として大学院を希望している学生がこれまでの調査よりも多いことがわかった。会津大学の大学院を希望している2～4年生の学生は、2020年度の調査では72名であったのに対して、今回の調査では、86名と増加していた。さらに、他大学の大学院希望者も含めると129名となった。また、学生が卒業後の進路を考えるうえで役立った内容として、授業や教員との交流と回答している学生が2020年度の調査よりも増えていた。具体的には、2～4年生の合計は2020年度の調査では17名であったのに対し、2022年度の調査では67名となっていた。これは、本学への大学院希望者が増加していることと関連があるかもしれない。

3. 大学で身についた力について

大学に入ってから伸びた力について、コンピュータを活用する力と回答した学生が全学年に共通して多かった。一方、文章を書く力や読む力、筋道を立てて考える力については、4年間の学生生活の中で伸びることができるよう、支援が必要であることがわかった。文化研究センターでは、「アカデミック・スキル1」と「アカデミック・スキル2」において、論理的に読む・書くということを目的に授業を行っている。ただし、受講する学生は、1年生がほとんどであり、その後これらを学習する機会がないに等しい。学生が、4年間を通じて文章を書く力や読む力を身につけることができるよう、カリキュラムの構成や授業内容の検討を行うことが必要であろう。

学生が、大学に入って何をスキルアップできたのかということは、卒業後の進路を決めるにあたり重要な要素になってくる。今回の調査では、「文章を書く力」「文章を読む力」「人と協力してものごとを進める力」「人間関係を作る力」「自分の意見を述べる力」「筋道を立てて考える力」「コンピュータを活用する力」「健康を保つ力」「目標を向かって努力する力」の9項目を提示した。しかし、これ以外の項目において、学生が卒業後の進路を考える上で身につけてきた力があることも考えられる。従って、この調査では明らかになっていない学生が持つ力の成長を観察しながら、生活や進路の指導を行っていくことが重要だと考える。

V. まとめ

本調査は、1998年より継続的に実施し、今回で13回目となった。時代背景を反映させた調査項目になるよう、会津大学学生課学生支援係、本調査のワーキンググループで話し合いを重ねてきた経緯がある。この調査結果は、学生の生活・学習・心身の健康等の支援の一助を担っていた。しかし、近年では、学生支援を目的とした調査が各所で行われており、本調査の意義や目的が、他の調査でも補うことができるのではないかと、という問題提起がなされた。話し合いの末に、本調査は2022年度をもって終了することとなった。

今後、学生の支援を目的とした調査は別に行い、その結果をもとに、大学の運営・支援に役立てていきたいと考える。これまでご協力いただいた皆様に対し、感謝の意を表す。

参考文献

- ベネッセ教育総研 2001 報告書「学生満足度と大学教育の問題」
菊地 則行・中澤 謙 1999 98年度会津大学新入生の生活と意識1－基礎集計－ 会津大学文化研究センター研究年報 第5号 61-79

- 菊地 則行 2000 98年度会津大学生の生活と意識2ークロス集計ー 会津大学文化研究センター第6号 37-89
- 菊地 則行 2000 98年度会津大学生の生活と意識2ークロス集計ー 会津大学文化研究センター研究年報 第6号 61-79
- 菊地 則行・中澤 謙 2001 2000年度会津大学新入生の生活と意識1ー基礎集計ー 会津大学文化研究センター研究年報 第7号 63-86
- 菊地 則行 2002 2000年度会津大学生の生活と意識2ークロス集計：学習生活の違いによる分析ー 会津大学文化研究センター研究年報 第8号 23-47
- 菊地 則行・中澤 謙 2003 2002年度会津大学生の生活と意識1ー基礎集計ー 会津大学文化研究センター研究年報 第9号 133-174
- 菊地 則行 2004 2002年度会津大学生の生活と意識2ークロス集計：学習スタイルの違いによる分析ー 会津大学文化研究センター研究年報 第10号 39-61
- 菊地 則行・中澤 謙 2005 2004年度会津大新入生の生活と意識1ー基礎集計ー 会津大学文化研究センター研究年報 第11号 33-50
- 菊地 則行・中澤 謙 2007 2006年度会津大生の生活と意識1ー基礎集計ー 会津大学文化研究センター研究年報 第13号 97-137
- 菊地 則行・中澤 謙 2009 2008年度会津大新入生の生活と意識1ー基礎集計ー 会津大学文化研究センター研究年報 第15号 53-71
- 菊地 則行・中澤 謙 2011 2010年度会津大学生の生活と意識1ー基礎集計ー 会津大学文化研究センター研究年報 第17号 91-137
- 菊地 則行・中澤 謙 2013 2012年度会津大学新入生の生活と意識1ー基礎集計ー 会津大学文化研究センター研究年報 第19号 109-132
- 菊地 則行・中澤 謙 2017 2016年度会津大学新入生の生活と意識1ー基礎集計ー 会津大学文化研究センター研究年報 第23号 25-52
- 中澤 謙・菊地 則行 2017 2016年度会津大学生の生活と意識1ー基礎集計ー 会津大学文化研究センター研究年報 第23号 53-106
- 中澤 謙 2019 2018年度会津大学新入生の生活と意識1ー基礎集計ー 会津大学文化研究センター研究年報 第25号 73-99
- 中澤 謙 2019 2018年度会津大学生の生活と意識1ー基礎集計ー 会津大学文化研究センター研究年報 第25号 101-151
- 蛭名 正司・沖 和砂・中澤 謙 2021 2020年度会津大学新入生の生活と意識1ー基礎集計ー 会津大学文化研究センター研究年報 第27号 11-34
- 沖 和砂・蛭名 正司・中澤 謙 2021 2020年度会津大学生の生活と意識1ー基礎集計ー 会津大学文化研究センター研究年報 第27号 35-92

割合の非加法性の理解を促進する教授法の検討

—ICT を活用した割合の数対生成・参照活動に注目して—

蛭名正司

1. 問題と目的

教科の学習において、科学的概念を学習したとしても、問題解決時に誤った判断が見られることは広く知られている。このような誤った判断を引き起こす学習者の要因として、誤概念の影響（麻柄他，2006）や、知識操作の不十分さの影響（工藤他，2022）などが指摘されている。また、これらの学習者側の要因を念頭に置いたうえで、いかにして問題解決を促進するかについても、幅広く検討されてきている（e.g., 麻柄他，2006；工藤他，2022）。本稿では、これらの先行研究の知見を踏まえつつ、算数・数学科で取り上げられる割合を題材として、割合に関する問題解決を促進するための教授要因を検討することを目的とする。

割合は内包量の一つである。遠山（1978）によれば、量は外延量と内包量に分類され、外延量とは「大きさ」・「広さ」を表した量で、合併の結果を加法で求めることができる加法的な量である。それに対して内包量は2つの外延量の除法で求めることができる量であり、「強さ」を表す量とされる。外延量と内包量の特徴として大きく異なるものに、非加法性の有無がある。すでに述べたように外延量は合併の結果を加法によって導ける一方で、内包量は、合併の結果を加法によって導くことができない。例えば内包量の一つである塩分濃度を例にすると次のようになる。塩分濃度2%の食塩水100gと、塩分濃度3%の食塩水100gを合併したときにできる食塩水200gは、塩分濃度が5%とはならない。この場合の塩分濃度は2%と3%の間になる（この例では、 $(2g+3g)/(100g+100g)$ となり、塩分濃度は2.5%となる）。

上記のように、内包量の非加法性は、外延量との意味の違いを理解する上で、きわめて重要な性質といえる。ところで、内包量は「度」「率」「倍」「比」の下位概念に分類される（遠山，1978）。いずれの量も小学校で学習するが、特に「率」については多くの児童生徒にとって理解が容易でないことが指摘されている（吉田，2003）。また「率」の代表的な量である百分率（パーセント）は、統計量として日常的に接する機会の多い量である。その意味で、百分率で表される割合の概念的理解を促進することは、教育実践上意義のあることといえる。以上から、本研究では内包量の中でも割合に焦点を当て、割合の非加法性の理解を促進するための要因を検討する。

先行研究では、割合の非加法性について、多くの学習者が誤った判断を示すことが指摘されている。Stavy & Tirosh（2000）では、2つのカップに、同じ濃度の砂糖水を用意し、それを1つのカップに入れたときの砂糖水の甘さを判断させる課題を6歳から10歳児に出題した。その結果、多くの子どもが合併された砂糖水はより甘くなると判断することが示された。また、蛭名（2022）では、中学生を対象に、割合の大きさが同じもの同士を合併した際の、割合の大きさを判断させる問題を出題したところ、正しく判断できた中学生は、半数程度にとどまった。さらに、Koay（1998）は、教員養成系の大学院学生を対象とした調査において、割合の非加法性を無視した誤判断が見られたことを指摘している。Koay（1998）で出題された課題は「2つのミックスナッツの袋がある。それぞれの全体量は250gと100gであり、また、50gずつカシューナッツが入っている。2つのミックスナッツを混ぜ合わせるときに、カシューナッツの割

合が何%になるのか」という問題であった。この問題を解決する場合、それぞれの割合（20%と50%）を算出して「25%+50%」という加法を行うと誤りであるにもかかわらず、大学院生の13%~16%が、加法的判断を示したという。以上の先行研究を踏まえると割合の非加法性の理解は、子どもから成人にいたるまで難しいことがわかる。そのような誤りを引き起こす要因としては、割合と外延量との区別が不十分であるために、外延量と同じように加法操作を適用することが考えられる。では、このような割合の非加法性に関する誤った判断を修正するにはどのような教授法が有効であろうか。

割合の非加法性とは異なるものの、内包量と外延量との性質を混同した誤りとして、麻柄（1992）は「内包量の保存」に関する不十分な理解を指摘している。内包量の保存とは、土台量（あるいは全体量）の多少にかかわらず、当該内包量の“強さ”は一定であるという性質である。麻柄（1992）は、密度を題材として、「全体の濃さが 10l/m^3 でした。このうちの 5 m^3 を取り出したとき、全体の濃さと 5 m^3 の濃さはどちらが濃いかな」などの保存課題を用いて内包量の保存の理解を調べたところ、小学6年生の一定数が誤った判断を示すことを指摘した。麻柄（1992）は、内包量の保存の理解を促すために、粒子モデルを用いて粒子間の距離をつまみ具合として視覚的に示したところ、内包量の保存性の理解が促進されたと指摘している。このような知覚的に理解可能な情報の提示によって外延量と内包量との性質が異なることの理解を促すことは可能であると考えられる。

しかしながら、麻柄（1992）が取り上げた密度は、空間に占める物体の量で定義される量であり、均等分布の理解が重要となる（銀林，1975）。銀林（1975）によれば、内包量には、均等分布を前提とした量（直接的内包量）と前提としない量（間接的内包量）の両方が含まれ、直接的内包量から間接的内包量へと理解を拡張するには比例の原理を媒介する必要があるという。このことを踏まえると、百分率で表される割合の多くは、間接的内包量に属するものであることから、比例の原理を媒介させることが、割合の意味理解にとって重要といえる。実際に、数学教育学の研究を中心に、割合の指導において比例関係の理解を重視した授業実践が提案されている（田端，2003；高橋他，2014；土屋，2002）。そこでは、比例関係を用いて、同じ割合になる数対（基準量と比較量のペア）が複数存在することが扱われている。割合が同じ値でも、比較量/基準量の数対の組み合わせは無数に存在することが確かめられることで、割合と外延量（比較量/基準量）が異なる性質を持っていることを、納得を伴って理解できると考えられる。

さて、本研究でターゲットとする概念は割合の非加法性である（以下、割合の非加法性ルール）。上記の比例関係に基づいた割合の数対生成だけでは、割合の非加法性ルールを獲得するには不十分である。そこで本研究では、「同じ大きさの割合同士を足し合わせても、割合は変わらない」というルールの獲得を促すために、学習者が作成した数対を任意に合併する学習活動を取り入れる。従来の教授学習に関する心理学研究では、複数の事例が科学的ルールの獲得に有効であることは繰り返し指摘されてきた（e.g., 荒井他，2001；伏見，1995）。また、学習者が意外に思う事例を提示したり、学習者にルールに当てはまらないと思う事例をあげさせたりすることが、ルールの一般性の理解について重要であることが指摘されている（工藤他，2022）。しかし、先行研究で検討されてきた教授法の多くは、教授者が事例を提示するか、学習者が個人で事例を探すことが中心であった。そこで、本研究では、事例の多様性の理解を促す新たな手段として、自身が事例を生成することに加え、他者が考案した事例を参照しながら自身の事例を検討する活動を取り入れる。他者の事例をリソースとして、自身の生成した数対を再検討することで、教授者から与えられた事例や自身が生成した事例にとどまったりすることなく、ルールに当てはまる事例が任意にかつ多様に生成できることを実感をもって理解できると考えられる。以上から本研究では、①他者の割合の数対を参照しながら自身の数対を生成し、②それらの数対を組み合わせで割合を合併する学習活動を通じて、事例の多様性、任意性が理解でき、割合の非加法性ルールの適用が促進されるかどうかを確かめるこ

とを目的とする。

本研究では、上記の数対の生成・参照活動を行う際に、タブレットPCを用いて行う。タブレットPC上で、クラス全員が同時にアクセスできるアプリを活用することで、参加者が生成している割合の数対をリアルタイムで参照し合いながら、自身の数対を生成することができる。この方法は、少人数のグループ学習や、授業終盤でのクラス全体での事例共有とは異なる。というのは、例えば、少人数でのグループ学習では、話し合いながら数対を考案することで、その集団内では多様な事例が出るであろう。しかし、多様性という点で、グループ学習で共有される事例はあくまでもグループメンバーから出される事例にとどまることから、クラス全体の事例の数に比べれば乏しいものとなるといえる。また、グループ学習の後に全体で事例を共有することで、クラス全体でさらに多様な事例を共有することになるという見方もあるだろう。しかし、授業の終盤にクラス全体の事例を知っても、それを活用して、さらに自身で事例を探す活動は難しいと考えられる。そこで本研究では、初めからクラス全体の多様な事例の共有が可能で参照できる学習環境を考案した。このような学習環境により、参加者は事例の任意性・多様性を実感することで、割合の非加法性ルール的一般性を理解できるようになると考えられる。

2. 方法

参加者 福島県内の公立中学校1年生2クラスの71名を調査対象とした。事前調査、授業、事後調査のすべてに参加した生徒54名を分析対象とした（内訳：1組26名、2組28名）。参加者は、中学校1年生の比例・反比例の単元を学習したあとに、本調査に参加した。

調査課題 調査課題は、合併課題、保存課題、立式課題の3種類であった。合併課題は、内包量の非加法性の理解を見るために、3つ以上の割合を合併する問題タイプ（果汁問題、おこづかい問題）、2つの割合を合併する問題タイプ（シュート問題、ケーキ合併問題）、及び合併後の割合を算出する問題タイプ（乗車率問題）を出題した。保存課題は、麻柄（1992）を参考に作成し、全体量を分割しても、部分量の割合には変化がないことの理解を見る課題であった。立式課題は、比の第一用法及び第二用法の公式を用いる割合文章題であり、公式が適用できるかを見る課題であった。以上の調査課題を Figure1（合併課題）及び Figure2（保存課題、立式課題）に示す。事前調査課題および事後調査課題は共通の問題であった。

授業概要 授業は、ワークシート、タブレットPC、電卓を用いて、ワークシートの問題（以下、授業内課題）を解きながら進めた。授業内課題を Figure3 に示す。ワークシートの冒頭には、「割合＝部分量／全体量」という公式を示した。

授業内課題1及び2は、2つのチョコを合併したときに、カカオ率がどうなるのかを判断する問題であった。各課題では、チョコ全体の重さ、カカオの重さ、およびカカオ率を示し、またカカオのつまり具合を粒子で表した図も提示した。図は、合併の前後の状況がわかるように提示した。課題1は、2つのチョコの大きさが同じもの同士の合併状況、課題2は、2つのチョコの大きさが異なるもの同士の合併状況であった。カカオ率が何%かを判断した後に、判断の理由を解答させた。判断理由の選択肢として、「ア．カカオの苦さ（チョコの味）」、「イ．図のカカオのつまり具合」、「ウ．カカオの重さと全体の重さ」、「エ．その他」を提示した。課題1及び2では、まず問題を参加者に解いてもらい、次に、授業者が合併後のチョコ全体の重さおよびカカオの重さそれぞれ加算し、「割合＝部分量／全体量」に代入して割合を求めて確認した。

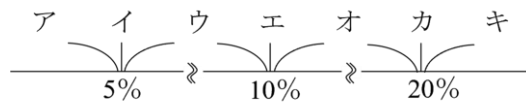
合併課題 (果汁) 「果汁 1%オレンジジュース」があります。このジュースを 100 本分まぜたら、果汁は何%になるでしょうか。次のア～ウから、あなたの考えにあてはまるものを 1 つ選び、記号に○をつけましょう。その他の場合は、() に記入してください。

【ア. (正答) 汁 1%のまま変わらない イ. 果汁 100%になる ウ. その他】

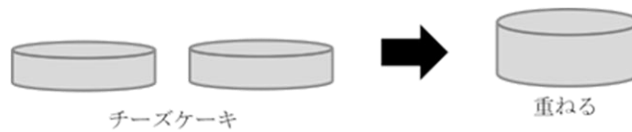
(おこづかい) 毎月もらったおこづかいのうち、10%を貯金箱で貯金しました。6か月間で貯金箱にたまったお金は、もらった金額全体の何%になっているでしょうか。次のア～ウから、あなたの考えにあてはまるものを 1 つ選び、記号に○をつけましょう。その他の場合は、() に記入してください。

【ア. (正答) もらったおこづかい全体の 10%がたまっている イ. もらったおこづかい全体の 60%がたまっている ウ. その他】

(シュート) サッカーの試合でシュートの成功率を調べました。シュートの成功率は、試合の前半が 10%、試合の後半も 10%でした。このとき、試合全体のシュートの成功率は何%になるでしょうか。次のア～キからあなたの考えにあてはまるものを 1 つ選び、記号に○をつけましょう。(正答エ)



(ケーキ合併) たかしさんとさくらさんはチーズを使ってチーズケーキを作りました。2人とも、ケーキ全体の重さに対してチーズの重さが 20%になるように作りました。2人はより大きなチーズケーキを作るためにそれぞれが作ったチーズケーキを重ねて 2 段重ねのチーズケーキを作りました。このとき、2段重ねのチーズケーキ全体の重さに対して、チーズの重さの割合は何%になりますか。ア～キからあなたの考えにあてはまるものを 1 つ選び、記号に○をつけましょう。(正答エ)



(乗車率) 3両編成の電車があります。A 車両、B 車両、C 車両の定員、乗客数、乗車率は下の表のようになっています。このとき、電車全体の乗車率は何%になりますか。また、そのように考えた理由を () に記入しましょう。(正答 25%)

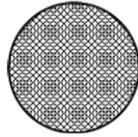
	A 車両	B 車両	C 車両
定員	80 人	100 人	80 人
乗客数	20 人	25 人	20 人
乗車率	25%	25%	25%

$$\text{乗車率} = \frac{\text{乗客数}}{\text{定員}}$$

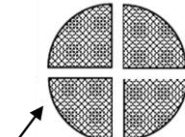
Figure1 調査課題 (合併課題)

保存問題 花子さんは、チーズを使ってチーズケーキを作りました。チーズケーキは、ケーキ全体の重さに対して、チーズの重さの割合が40%でした。このチーズケーキを食べようと思い、下の図のように4つに切り分けました。このとき、もとのチーズケーキ全体の重さに対するチーズの重さの割合と、1人分のチーズケーキ全体の重さに対するチーズの重さの割合は、どちらが大きいですか。ア～ウからあなたの考えあてはまるものを1つ選び、記号に○をつけましょう。またそのように考えた理由を()に記入してください。

【ア. もとのチーズケーキの方がチーズの割合は大きい イ. 1人分のチーズケーキの方がチーズの割合は大きい ウ. (正答) どちらも同じ割合】



もとのチーズケーキ



1人分のチーズケーキ

立式問題 (第二用法) 36人のクラスで、犬が好きな子どもの割合は75%でした。このとき犬が好きな子どもは何人いますか。犬が好きな子どもの人数を求める式を、次のア～カから1つ選びましょう。また、それ以外の式の場合は「カ. その他」に記入してください。なお、75%は、小数(0.75)にして計算します。

【ア. $36 \div 0.75$ イ. $0.75 \div 36$ ウ. (正答) 36×0.75 エ. $36 - 0.75$ オ. $36 + 0.75$ カ. その他】

(第一用法) 32人のクラスで、なわとびが好きな子どもは8人いました。なわとびが好きな子どもはクラス全体の何%ですか。なわとびが好きな子どもの割合を求める式を次のア～カから1つ選びましょう。その他の場合は()に記入してください。

【ア. (正答) $(8 \div 32) \times 100$ イ. $(32 \div 8) \times 100$ ウ. $(32 - 8) \times 100$ エ. $(32 \times 8) \times 100$ オ. $(32 + 8) \times 100$ カ. その他】

Figure2 調査課題 (保存課題/立式課題)

課題2の解答を確認した後に、「(課題) 1, 2からいえることは何ですか?」と質問し、ワークシートの「割合の大きさが(①)もの同士を足し合わせても、割合の大きさは(②)。」の空欄に入る語句を参加者に考えてもらい、数名の参加者の語句を紹介した。

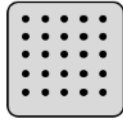
課題3は、タブレットPCを用いてカカオ率が60%になるように任意の割合の数対(カカオの重さ/チョコ全体の重さ)を作ってもらった活動であった。参加者全員がクラスごとに1枚のGoogleスプレッドシートを共有し、各自が考案した数対を相互に参照しながら取り組むように指示した。また数対が60%になっているかを電卓で確認するように指示した。

課題4は、課題3で各参加者が作成した数対を参照しながら、カカオ率が60%のチョコの「つめ合わせセット」を作成するように伝えた。この課題では、様々な形の付箋を配布したうえで、付箋1枚をチョコ1個とみなし、その付箋に割合の数対を記入し、チョコを自由に組み合わせるように伝えた。最後に複数のチョコを合併しても60%になっているかを確認するように指示した。また、付箋を貼り終えた後、タブレットPCのカメラで「つめ合わせセット」を撮影し、画像をアップロードするように伝えた。

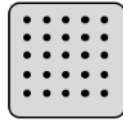
授業終了後、「ふり返し」として、Googleフォーム上に、「課題3で、クラスの人の数値ややり方を参考にして考えたか」と質問し、選択肢として「1. 初めからクラスの人の数値を参考に考えた。2. 最初は自分で考えたが、途中でクラスの人の数値を参考にして、自分の数値を考え直した。3. 最初から最後までクラスの人の数値を参考にしなかった。」を提示した。さらに、「1」を選択した参加者には、「クラスの人どのような数値を参考にしましたか? (数値を忘れた場合はスプレッドシートを見直してもかまいません)

1. チョコレートの中にカカオがどれくらい含まれているかを表す割合を「カカオ率」と呼ぶことにします。カカオ率40%のチョコが2個あり、下の図のように表されています。2個のチョコの「チョコ全体の重さ」と「カカオの重さ」を測ったところ、下のようになっていました。2個のチョコを合わせて大きなチョコを作ったとき、大きなチョコのカカオ率は何%になりますか？

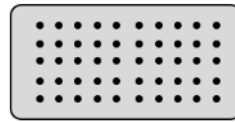
※●はカカオを表すとします。



カカオ率 40%
カカオの重さ 20g
全体の重さ 50g



カカオ率 40%
カカオの重さ 20g
全体の重さ 50g



カカオ率
() %

あなたは何を手がかりにカカオ率を考えましたか？

- ア. カカオの苦さ (チョコの味)。
- イ. 図のカカオのつまり具合。
- ウ. カカオの重さと全体の重さ
- エ. その他

2. カカオ率 80%のチョコが2個あり、下の図のように表されています。2個のチョコを合わせて大きなチョコを作ったとき、大きなチョコのカカオ率は何%になりますか？



カカオ率 80%
カカオの重さ 24g
全体の重さ 30g



カカオ率 80%
カカオの重さ 32g
全体の重さ 40g



カカオ率
() %

あなたは何を手がかりにカカオ率を考えましたか？

- ア. カカオの苦さ (チョコの味)。
- イ. 図のカカオのつまり具合。
- ウ. カカオの重さと全体の重さ
- エ. その他

1, 2からいえることは何ですか？

割合の大きさが () もの同士を足し合わせても、割合の大きさは () 。

3. タブレットで取り組もう (以下の問題は Google スプレッドシート上で提示)

カカオ率 60%のチョコの「つめ合わせセット」を作りたいと思います。この「つめ合わせセット」には小ささまざまなチョコを入れることができます。チョコが好きな人にはできるだけ大きいチョコ、チョコが苦手な人にはできるだけ小さいチョコを食べてもらいたいと思います。

カカオ率が 60%になるように、「チョコ全体の重さ (g) と「カカオの重さ (g) の組み合わせを 1人1つ考えて下の表に記入してみよう。」

4. 問題3で、様々な大きさのチョコを考えました。これらのチョコを組み合わせ、チョコのつめ合わせセットを作ってみよう。付箋にチョコ一つ分のカカオの重さとチョコ全体の重さを記入し、下の枠につめ合わせセットを作ってください。なお、使用するチョコの個数や種類は自由です。実際に 60%になったかを確認して、その結果も書いておこう。(図や解答欄は省略)

Figure3 授業内課題

ん)」、「3」を選択した参加者には、「クラスの人の数値を参考にしなかった理由は何ですか？（特になければ、「なし」と入力してください）」という追加の質問を行った。最後に、「今日の割合の授業で、わかったこと、納得したこと、気づいたこと、わからなかったこと、疑問に思ったことなどを自由に入力してください。」という質問を提示した。

手続き 事前調査・授業・事後調査は、連続した2コマ（1コマ50分）の授業で実施され、いずれも筆者が実施した。また、事前調査の時間は約20分、授業時間は約50分、事後調査は約15分で実施された。また、授業では、数学科教諭が補助として入った。調査の実施にあたって、学校長及び数学科教諭の許可を得た。授業中の様子を記録するためにビデオカメラを使用し、教室の背後から授業者が映るように黒板側を撮影した。授業中に使用したタブレット PC は参加者が普段使用しているものを使用した。また、参加者に配布したワークシートを説明する際に、大型モニターに授業内課題を映しながら説明した。電卓や付箋は、授業者が用意し、授業中に必要な場面で配布した。

3. 結果と考察

以下の分析を行うにあたり、2つのクラスの事前の理解状況が等質であるかどうかを確認しておく。事前調査の合併課題5問の正答数をクラス間で比較したところ、有意差は見られなかった ($t(52)=1.35, n.s.$)。また、授業の進行も2つのクラスではほぼ同様であったことから、以下の分析は2つのクラスを統合して行う。

3.1 事前・事後調査の結果

合併課題 事前調査の結果を Table1 に示す。果汁問題が80%と高い正答率であったが、それ以外の問題（おこづかい、シュート、ケーキ合併、乗車率）は、5割～7割程度にとどまった。このことから、本研究の調査参加者は、割合の非加法性の理解を促進する教授法の有効性をみる対象者として妥当であると考えられる。また、果汁問題のみ事前の正答率が高かった理由として、ジュースなどの溶液を混ぜる経験は、参加者の多くが経験していると考えられ、そのような経験から、ジュースの濃さは、合併しても変わらないと判断した参加者が多かったと考えられる。また、誤答の内容としては、誤りの中でも、数値を合併する誤りが最も多く見られ、果汁課題で20%、おこづかい課題で28%、シュート課題で15%、ケーキ合併課題で19%に達した。このことから、合併状況においては、割合は外延量のように加法が可能であると理解している参加者が一定数いることが示唆された。

Table1 事前・事後調査の正答率 (N=54)

	事前	事後
合併課題		
果汁問題	43 (80)	48 (89)
おこづかい問題	38 (70)	45 (83)
シュート問題	37 (69)	48 (89)
ケーキ合併問題	37 (69)	48 (89)
乗車率問題	30 (56)	44 (82)
(適切な理由)	22 (41)	33 (61)
保存課題		
ケーキ分割問題	35 (65)	44 (82)
立式課題		
第1用法	36 (67)	38 (70)
第2用法	36 (67)	34 (63)

次に、事後調査の結果について述べる。事後調査の結果を Table1 に示す。果汁問題、おこづかい問題、シュート問題、ケーキ合併問題ではいずれも正答率が 8 割を超えた。また乗車率問題は、正しく数値を算出できた参加者は 82%に達したものの、判断理由まで適切であったものに限定すると正答率は 61%にとどまった。しかし、全体として、本研究で実施した授業は割合の非加法性の理解を促進する上で、一定の効果を示したといえる。

保存課題 保存課題は、事前調査の正答率が 65%であったが、事後調査では、82%に上昇した。このことから保存課題についても正しい判断が促進されたと考えられる。保存課題は、授業内では直接取り上げていないものの、全体の大きさが変わったとして、割合が変わらないというより一般化された形で、ルールが獲得された可能性が考えられる。

立式課題 立式課題においては、事前調査及び事後調査とも正答率は 6 割～7 割程度にとどまった。授業では、割合＝部分量／全体量を提示し、割合を求めるときには、この公式に値を代入することを繰り返して説明した。しかし、正しい立式を選択できた参加者は事後でも 7 割以下にとどまったことから、本授業の内容では、公式の適用を促す効果は見られなかったといえる。

3.2 授業内課題の結果

本研究で実施した授業は、参加者が授業内課題を解決し、授業者がその解答解説を提示しながら進められた。以下では、ワークシートに記述された解答結果をもとに、参加者の授業中の理解状況を分析する。

授業内課題 1, 2 は部分量／全体量と割合、さらに部分量の分布を示す図 (Figure3 参照) も提示したうえで、2 つの物体を合併した際に、割合はどうかを判断する問題であった。まず、授業者が問題を説明し、電卓の使用を認めた上で判断させた。その結果、問題 1 では 1 名が無記入であったが、それ以外の全員 (53 名) が割合 (カカオ率) は「変わらない」と判断し、そのうちの 48 名 (91%) が「カカオの重さと全体の重さ」を手がかりとしていた。一方で、図を手がかりに判断した者は 4 名 (8%) にとどまった。授業者が問題 1 の解答を提示し、合併後の部分量／全体量を計算し、割合は 40%になることを確認した。

次に、問題 2 を提示した。問題 2 は、大きさが異なるチョコ同士を合併した場合のカカオ率を判断する問題であった。解答は、参加者全員が合併前と同じ割合である「80%」と記入し、手がかりとして「カカオの重さと全体の重さ」を利用した者は 51 名 (94%) であり、残りは未記入であった。

割合の非加法性ルールとして、「割合の大きさが (①) もの同士を足し合わせても、割合の大きさは (②) 。」を提示し、空欄に入る語句を記入するように指示したところ、①には、「同じ」「等しい」、②には「変わらない」「変化しない」「等しい」「同じ」という語句が記入されていた。机間指導では、空欄の参加者もわずかにいたが、解答結果をクラス全体で共有した後は、ほぼ全員が適切な語句を記入していた。

問題 3 は、特定の割合 (カカオ率 60%) になるように任意の部分量／全体量を生成する問題であった。Google スプレッドシート上に問題 3 を提示し、1 つのスプレッドシートを参加者全員で共有した。授業者が問題を読み上げたあと、例として、出席番号 0 を提示しながら部分量「6g」全体量を「10g」の組み合わせでは、カカオ率が 60%になることを示した (Figure4 の「No.0」)。これを踏まえて、カカオ率が 60%になる部分量／全体量の組み合わせが他にないかを探そうに指示し、どのように求めたかも入力してもらった。作業中は、近くに座っている参加者同士で質問し合ったりしてもよいことを伝えた。また、スプレッドシートは、教室前方に設置した大型モニター上にも表示し、授業者は参加者が数対を考えている時間に、すでに入力されている数対を取り上げて、クラス全体に向けて紹介した。

Figure4 は、1 クラス分の入力結果を示したものである。「カカオの重さ」と「チョコ全体の重さ」の数

No.	氏名	カカオの重さ (g)	チョコ全体の重さ (g)	割合	どうやって求めましたか？
0	授業者氏名	6	10	0.6 (60%)	比例/公式/○×0.6, など
1		60 恒河沙	100 恒河沙	0.6 (60%)	割合の公式
2		18	30	0.6 (60%)	○×0.6
3		4	12	0.6 (60%)	
4		114	190	0.6 (60%)	○×0.6
5		72	120	0.6 (60%)	○×0.6
6		0.6	1	0.6 (60%)	比例
7		600 不可思議	1000 不可思議	0.6 (60%)	公式
8		18	30	0.6 (60%)	○×0.6
9		24	40	0.6 (60%)	比例
10		1860	3100	0.6 (60%)	○×0.6
11		1.2	2	0.6 (60%)	比例
12		12	20	0.6 (60%)	比例
13		1842	3070	0.6 (60%)	3070×0.6
14		600 京	1000 京	0.6 (60%)	比例
15		119.8	333	0.6 (60%)	比例
16		180	300	0.6 (60%)	
17		90 那由多	150 那由多	0.6 (60%)	90 那由多 ÷ 150 那由多
18		60	100	0.6 (60%)	比例
19		60 不可説不可説転	100 不可説不可説転	0.6 (60%)	
20		30	50	0.6 (60%)	50×0.6
21		60 阿僧祇	100 阿僧祇	0.6 (60%)	60 阿僧祇 ÷ 100 阿僧祇
22		42	70	0.6 (60%)	42 ÷ 70
23		25.2	42	0.6 (60%)	42×0.6
24		21	35	0.6 (60%)	35×0.6
25		30	50	0.6 (60%)	50×0.6
26		180	300	0.6 (60%)	比例
27		600	1000	0.6 (60%)	1000×0.6
28		60	100	0.6 (60%)	100×0.6

※ 「No.」は、参加者の出席番号とは異なる。網掛け部分は参加者の編集可能領域を示す。

Figure4 授業内課題_問題4の解答結果 (1クラス分)

値の組み合わせは、No.2の「18, 30」やNo.12「12, 20」のように、授業者の例示した数値に近いものを挙げる参加者があげる一方で、No.10の「1860, 3100」やNo.13の「1842, 3070」のようにかなり大きい数値を挙げる者もいた。また、No.1の「60 恒河沙, 100 恒河沙」、No.7の「600 不可思議, 1000 不可思議」など、現実的には考えにくいチョコの大きさを入力した参加者も6名ほど見られた。また、部分量/全体量の組み合わせが0.6になっていない参加者も2名 (No.3, No.15) 見られたが、それ以外の者は、全員正しい数値の組み合わせを生成することができた。参加者が生成した数値を全体として見ると、同じ数値の組み合わせがほとんどないことがわかる。このことは、他者の数値を参考にしながら、他者とは異なるオリジナルの数対を生成しようとしたためと考えられる。また、「どうやって求めましたか？」に入力された内容を見ると、公式が17名、比例が8名、空欄が3名であった。公式の利用が多かった理由としては、授業の冒頭に公式の説明をしたことが考えられる。

問題3ではほぼ全員の入力が終わったことを確認して再びワークシートに戻り、問題4を説明した。問題4は、問題3で参加者が生成したカカオの重さ/チョコ全体の重さを自由に組み合わせ、 「チョコのつめ合わせセット」を作成する課題であった。この課題で参加者が作成した「つめ合わせセット」の一部をFigure5に示す。

付箋一枚に種類の数対を記入し、それをワークシートの枠内に貼り付けることで、「つめ合わせセット」とみなした。やり方がわからない参加者は、近隣の参加者と教え合いながら作業に取り組む様子が見

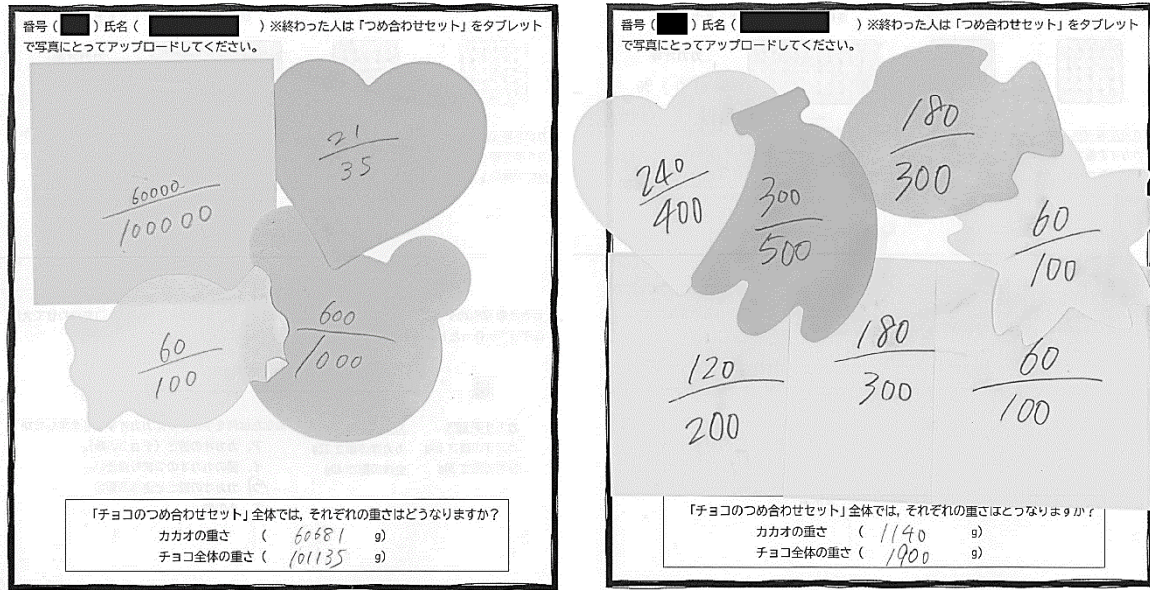


Figure5 授業内課題_問題4の解答結果の一部 (2名分)

られた。その結果、Figure5に示すように、各自が任意の数対で「つめ合わせセット」を作成していた。部分量、全体量をそれぞれ合計して、割合を求めるとどうなるかを確認することも指示した。合計値の計算まで終えた参加者には、「つめ合わせセット」をタブレットPCのカメラ機能で撮影し、共有フォルダにアップロードするように指示した。授業の最後には、参加者数名の「つめ合わせセット」を大型モニターに写し、同じ大きさの割合同士をどのような組み合わせで足し合わせても、割合の大きさは変わらないことを確認した。

3.3 他者解答の参照の有無と割合の非加法性の理解との関連

本研究では、授業内課題の問題3を解答する際に、他者の解答の参照活動を取り入れた。具体的には、問題3では、数値を生成する際に、他者の解答を参考にしてもよいことを伝えた。授業後のアンケートでは、問題3の解決場面において、他者の解答を参考に自身の解答を作成したかを質問した。その結果、「初めからクラスの人々の数値を参考に考えた。」(以下、初めから参照)を選択した参加者は16名、「最初は自分で考えたが、途中でクラスの人々の数値を参考にし、自分の数値を考え直した。」(途中から参照)を選択した参加者は17名、「最初から最後までクラスの人々の数値を参考にしなかった。」(最後まで非参照)を選択した参加者は21名であった。

これらの3つの参照タイプ間で事前から事後にかけて、合併課題の合計点がどのように変容したのかを比較した(Figure6)。その結果、調査時期の主効果のみ有意であり($F(1,51)=21.2, p<.05$)、参照タイプ的主効果および、調査時期と参照タイプとの交互作用は有意ではなかった($F(2,51)=0.18, n.s.$; $F(2,51)=0.25, n.s.$)。このことから、他者の数値を参照したかどうかによらず、事前から事後にかけて割合の非加法性の理解は促進されたことが示唆された。この点をより詳細に検討するために、他者の解答を参照しなかった参加者はなぜ参照しなかったのか、自由記述を分析した。その結果、「自分でできたから」「自分で考えた数値だとどうなるのか」「自分の力でやりたかったから」という記述が数名に見られた。このことから、他者の数値を参照しなかった参加者は、自分なりに試行錯誤して考えたい者が多かったといえる。それに対して、初めから他者を参照した参加者は自身で生成した数値に自信がない、あるいはそもそもどのような数値を生成すればいいのかわからなかった可能性がある。今回の授業では、そのような参加者であって

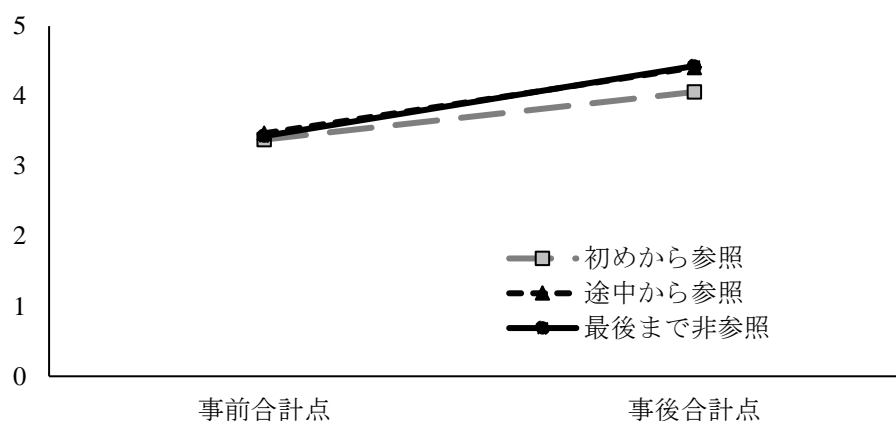


Figure6 参照タイプ別の合併課題5問の正答数の変化

も、他者が生成した数値を参照しながら自分の数値を生成することで、事後調査では自力で数値を生成した参加者と同程度の正答数まで到達することが可能であったといえる。

3.4 授業の感想

授業を終えた後に、わかったことやわからなかったことなどを自由に記入してもらった。参加者の記述内容を「A. 非加法性ルールへの言及」、「B. 授業で扱った具体例への言及」、「C. 授業全体に関する言及」、「D. 大きい数に言及」の4つのカテゴリーに分類した (Table2)。

「割合は同じ割合が合わさっても、割合は変わらないことがびっくりした (A.1)」というように、参加者にとって、非加法性ルールは驚きをもたらすものであることも示唆された。非加法性ルールは、教科書等では明確には扱わない内容であることから、今回の授業で扱うことで初めて明確に理解できたと考えられる。非加法性ルールについて言及した参加者が一定数存在したことは今回の授業の有効性を支持する傍証となるといえる。

Table2 授業の感想

A. 非加法性ルールに言及

1. 割合は同じ割合が合わさっても割合は変わらないことがびっくりしました。
2. 割合の大きさが等しい者同士を足し合わせても割合の大きさは変わらない事がわかった。
3. 割合が等しいもの同士を足し合わせても、割合は変わらないというのが、改めて理解することができた。

B. 授業で扱った題材について言及

1. カカオの重さがいろんな重さがあったこと。
2. 100分の60の0を増やしても同じことがわかった。
3. とても大きな数同士でも必ず0.6になるということが分かった。

C. 授業全体に関して言及

1. おもしろかった。
2. 割合のことについてさらに詳しく知れた。
3. 割合は苦手だったけど解けるようになった気がする。

D. 大きい数に言及

1. 不可説不可説転は0が37個つくことがわかった。
2. 無量大数は実際はどんな大きさの数なのか疑問に思いました。

一方で、「カカオの重さがいろんな重さがあったこと (B.1)」「100分の60の0を増やしても同じことがわかった (B.2)」という感想は、授業で扱った事例に関する言及といえる。この感想自体は誤りではないが、授業のねらいは、さらにそこから一般化した非加法的ルールを獲得であることを踏まえると、一般化した形でルールを獲得するにはどのような方法が有効か、今後の検討課題といえる。

また、今回の授業では、数対の生成活動を参加者に自由に行わせた結果、極端に大きい数を生成する参加者が数名いた。そして授業後の感想にも、「不可説不可説転は0が37個つくことがわかった (D.1)」というように、わかったこととして記述した者がいた。これらの参加者が、今回の授業で最も印象深かった点として「不可説不可説転がわかったこと」をあげていたとすれば、それは非加法的ルールの獲得からは注意がそれてしまったと言わざるを得ないであろう。一方で、このように極端に大きい数であっても割合は同じになっているということの理解につながるのであれば、参加者の考えを大事にする必要があるといえる。

4. 討論

本研究は、割合の非加法的ルールの適用を促すために、他者の割合の数対を参照しながら生成する活動によって、割合の数対に任意性・多様性があること、さらにそれらの合併の仕方についても、任意性・多様性があることの理解を促進する授業を実施した。その結果、事後調査課題の合併課題では、乗車率課題は理由の記述も含めた厳しい基準では、正答率は6割程度にとどまったものの、その他の課題では、おおむね8割以上の正答率であり、非加法的ルールの獲得は促されたといえる。

以上の効果をもたらした教授要因を検討したい。本研究の授業では、まずは均等分布を図示して、部分量(カカオ)のつまり具合は全体を合併しても変わらないことを示した。そして、このことを部分量/全体量を用いて割合を実際に算出することで、計量的にもその正しさを参加者に示した。授業中の参加者の様子からは、この時点で、割合の非加法的ルールの妥当性を認めている者が大半である様子がうかがえたことから、図と数値の提示は非加法的ルールの導入にとって有効であったと考えられる。また、非加法的ルールの一般性を確かめる活動では、他者の生成した数対を参照しながら自身の数対を生成する活動を取り入れた。その結果、授業者からは、「他の人と同じものを作らないように」などの指示はしていないにもかかわらず、ほとんどの参加者が、他者とは異なる数対を生成し (Figure4 参照)、また、数対の組み合わせも誰一人同じものがない、参加者全員がオリジナルの「つめ合わせセット」を作成することが可能であった。従来の研究では、単独事例よりも複数の事例提示が有効であることを示す研究はあったが、今回の授業のように他者の事例を参照しながら参加者が事例を生成し、ルールに合致しているかを確かめる活動も、ルールの一般化を促進する上で有効である可能性が示唆された。

さて、本研究では、割合の数対を生成する場面で、他者の数値を参照したかどうかを事後的に調べ、参照の仕方によって、合併課題の成績に違いが生じるかを検討した。分析の結果、始めから参照しても、まったく参照しなくても成績の上昇の程度には統計的な差異は見られなかった。特に初めから参照した参加者は、どのような数値を考えればよいかについて、課題を提示された時点では検討がつかなかった可能性がある。このような参加者にとっては、他者の解答を早い段階から参照できることで、どのような数値を生成すればよいか、解決の方策が立てやすくなった可能性が考えられる。また、多様な事例を見ながら自分なりの数対の生成が可能になったことで、初めから参照した参加者グループにおいても、事後では、その他のグループと同程度の成績に上昇したと考えられる。

また、本授業では直接取り上げていない保存課題においても、正答率が80%を超えたことから、全体量の大きさが変わっても、割合は変わらないというように、より一般化された形でルールが獲得された可

能性が考えられる。今回の授業からは、教授内容のどの部分がこの点の理解につながったかは判断できないものの、麻柄（1992）では、粒子モデルを提示することで、内包量の保存性の理解が促進されることを示している。そのことを踏まえると、本研究においても粒子モデルを提示したことが、内包量が保存されることの理解の促進に一定の役割を果たした可能性が考えられる。この点はさらに今後検討する必要があるだろう。

最後に、本研究の限界を述べる。本研究は、複数の教授要因を取り入れた構成法的手法で実施されたため、どの要因が非加法性ルールの獲得に有効であったかを断定することはできない。本研究では、均等分布の図示による直感的理解と計算による計量的理解、さらには、任意の数対の生成及び合併による非加法性ルールの確認が、非加法性ルールの一般化を促進したと考えられるが、これらの学習活動が、どのようにあるいはどの程度一般化に寄与したのかは、今後明らかにする必要があると考えられる。また、本研究では、事後の合併課題ではほぼ8割以上の正答率を達成したものの、乗車率課題では、理由の記述まで含めた正しい解答は、6割程度にとどまった。この結果は、非加法性ルールが、数値レベルで「割合は変わらない」ことが表面的に理解された可能性を示唆している。すなわち、数操作だけを表面的に理解した学習者は、乗車率課題において非加法性ルールの根拠として記述することができなかつたのではないかと考えられる。その意味で、数値レベルのみで多様性を扱うだけでなく、カカオ率以外の事例においても、同じように非加法性ルールが成立することを確認する必要がある可能性が考えられる。この点は今後の検討課題としたい。

5. 引用文献

- 荒井龍弥・宇野 忍・工藤与志文・白井秀明（2001）. 小学生の動物概念学習における縮小過剰型誤概念の修正に及ぼす境界的事例群の効果 教育心理学研究, 49(2), 230-239.
- 蛭名正司（2022）. 割合の非加法性に関する理解調査—中学1年生を対象として— 日本教授学習心理学会第18回年会予稿集, 36-37.
- 伏見陽児（1995）. 概念教授の心理学—提示事例の有効性— 川島書店
- 銀林浩（1975）量の世界—構造主義的分析— 麥書房
- Koay, P. L.（1998）. The knowledge of percent of pre-service teachers. *The mathematics Educator*, 3(2), 54-69.
- 工藤与志文・進藤聡彦・麻柄啓一（2022）. 思考力を育む「知識操作」の心理学—活用力・問題解決力を高める「知識変形」の方法— 新曜社
- 麻柄啓一（1992）. 内包量概念に関する児童の本質的なつまずきとその修正 教育心理学研究, 40(1), p20-28.
- 麻柄啓一・進藤聡彦・工藤与志文・立木徹・植松公威・伏見陽児（2006）. 学習者の誤った知識をどう修正するか—ル・パー修正ストラテジーの研究— 東北大学出版会
- Stavy, R., & Tirosh, D.（2000）. *How students (mis-)understanding science and mathematics: Intuitive rules*. New York: Teachers College Press.
- 田端輝彦（2003）. 同種の量の割合の導入に関する一考察 日本数学教育学会誌, 85(12), 3-13.
- 高橋丈夫・田端輝彦・市川啓（2014）. 割合の導入時における比例関係の顕在化に関する一考察—同じ割合の数対を作ることを通して— 日本数学教育学会誌, 96(4), 4-15.
- 遠山啓（1978）. 量とは何か— I 内包量・外延量— 太郎次郎社
- 土屋利美（2002）. 比例の見方を用いた「割合」の指導実践 日本数学教育学会誌, 84(8), 30-37.
- 吉田甫（2003）. 学力低下をどう克服するか—子どもの目線から考える— 新曜社

6. 付記

本研究は JSPS 科研費 19K14345 の助成を受けて実施された。

研究・教育・社会活動報告

網谷 祐一 (2021年4月～2023年3月)

1. 研究活動

著書

- 2022年6月 *Species Problems and Beyond*, edited by John Wilkins, Frank Zachos, and Igor Pavlinov, CRC Press (Wrote a chapter "Is Species Problem That Important?," pp. 39-64). ISBN: 103222147X

研究論文

- 2022年9月 "Do New Evolutionary Studies of Consciousness Face Similar Methodological Problems As Evolutionary Studies of Mind?" *Annals of the Japan Association for Philosophy of Science*, 31, pp. 31-53. [査読あり]
- 2021年12月 「山田大隆著『神が愛した天才科学者たち』のメンデルの項の誤記について」、『生物学史研究』、101号、69-73頁。
- 2021年4月 "Did Social Interactions Shape the Reflective Mind?," 『科学哲学科学史研究』、15号、1-24頁。URI: <http://hdl.handle.net/2433/262964> [査読あり]

研究発表 (主なもの)

- 2022年5月 "Finding Value-Ladenness in Science: The Case of Evolutionary Psychology," Tokyo Forum for Analytic Philosophy, University of Tokyo, Tokyo, Japan. [招待講演]

その他 (主なもの)

- 2021年10月 「新しい意識の進化研究の一翼をなす大著」(ギンズバーグ&ヤブロンカ著『動物意識の誕生』勁草書房の書評)、図書新聞、3517号、3頁。

競争的資金獲得

- 科学研究費補助金 基盤研究(C) 「アップデートされた「心の進化研究」の方法論的検討」(課題番号: 21K00036)、2021年4月-2024年3月(予定)、総額130万円(研究代表者)。

2. 教育活動

会津大学における担当授業 (2022年度)

- アカデミックスキル1・2
- 哲学(日・英)
- 科学史
- 課外プロジェクト(「AI・ロボットと倫理」)

3. 社会活動

一般向け講演 (主なもの)

- 2022年9月 「論文指導I」、みらいづ探究ラボ、會津稽古堂。
- 2022年7月 「研究とはなにか、どういう意味があるか」、みらいづ探究ラボ、會津稽古堂。

学外委員

- 日本科学哲学会(理事)、科学基礎論学会(評議員、企画広報委員、2020年度奨励賞選考委員会委員長)、『科学哲学科学史研究』誌(編集委員)

池本 淳一 (2021年4月～2023年3月)

1. 研究

学術論文

池本淳一、2021、「コロナ禍における学生支援に関するエスノグラフィ——会津大学教職員による学生への食料品支援を例に——」、会津大学文化研究センター研究年報第27号2020, pp.115～138 (査読なし)

著作等出版物 なし

共同研究

2022.5～2023.3「空き家対策の推進」(喜多方市・都市整備課との共同研究)

その他

池本淳一ほか、2021、「座談会 喜多方を探る：北方人はなぜ何かに向かって走っているのだ！」(星宏一、鈴木治代、池本淳一、司会・樟山敬一、構成・編集部による座談会)、『会津嶺』2021年2月号(No.503)、pp.4～14、あいづね情報出版舎(有)

池本淳一、2021.4、「特集序章 「武術と動画メディア論」 「動画で学ぶ武術」の変遷と可能性」、BAB ジャパン『月刊 秘伝』2021年5月号、pp.16～17

池本淳一、2021.11、「一健康と太極拳— フィールドワーカーが見た公園の太極拳とゆるやかさの源泉」、日本武術太極拳連盟『武術太極拳』、No.381、pp.14-15

製作物

池本淳一、「東北サファリパーク どうぶつ大接近!!」ほか計5作品(二本松をテーマにしたVR作品)、第52回福島ブロック大会 in 二本松 地域益増進発展事業『Experience Technology ～福島の未来のために～』(2022年7月2日開催) 出展、公益社団法人日本青年会議所東北地区福島ブロック協議会・福島の未来創造委員会様より奨学寄附金を授与

池本淳一、「デジタル未来のモノづくり～3Dモデルをつくろう!～」 「浮き出る物体!疑似ホログラム体験」、デジタル未来アート展(2023.3.18-27、会津若松市・稽古堂)、株式会社ルート49様(デジタル未来アート事業実行委員会からの事業受託者)より奨学寄附金を授与。

2. 教育・運営・FD活動

担当授業 アカデミックスキル1・2 社会学 地域社会学 Sociology (集中講義)

2020～2022年度前・後期 課外プロジェクト 社会調査とICTによる地域サポートプロジェクト

2020年度前期 課外プロジェクト 「人生100年時代」に向けた健康的なカラダづくり

サークル顧問 カンフーサークル

3. 社会貢献など

外部委員 2019.4～2023.3 会津美里町教育委員会点検及び評価における有識者会議委員

2020.10～2023.3 会津喜多方商工会議所 事業推進アドバイザー

2022.2.19～2023.2.19 喜多方市立小中学校適正規模適正配置審議会委員

学会関係 2019.6.1～2022.5 日中社会学会 大会担当理事

2019.9～2022.5 関西社会学会編集委員会専門委員

蛭名 正司 (2021年4月～2023年3月)

1. 研究活動 (著作・出版, 学会発表など)

【学会発表】

- ・蛭名正司 小野耕一「定数入れ替え原理」の理解が内包量の問題解決に及ぼす影響—中学校理科の湿度の場合— 日本教授学習心理学会第17回年会予稿集 (2021. 6)
- ・蛭名正司 割合の非加法性に関する理解調査—中学1年生を対象として— 日本教授学習心理学会第18回年会予稿集 (2022. 6)

【会津大学競争的研究費】

- ・ Learning support project using “Tsumazuki Share Board” 研究代表者 (2022.4-2023.3)

【会津大学 B クラスター】

- ・ ARC-Education (イノベーティブ教育クラスター) メンバー (研究代表者, HAMADA Mohamed)

2. 教育活動

教育心理学, 教育方法, 教育課程論, 数学科教育法1, 数学科教育法4, 教職実践演習, 教育実習1, 教育実習2, 教育実習事前事後指導, アカデミックスキル1, アカデミックスキル2, 心理学 (2021年度のみ), 卒業研究, 課外プロジェクト「教師になろう！」

3. 学内運営 (委員会)

学生支援委員会 (2022年4月—)

教職課程委員会 (2022年4月—)

4. 社会活動

【委員等】

- ・会津若松市教育委員会点検及び評価における有識者会議委員(2018-)
- ・会津若松市通学区域検討委員会委員(2022.5)
- ・会津若松市立一箕中学校学校運営協議会委員(2020-)

【講師等】

- ・第25回会津 Q-U 学習会講師 (2021.9)
- ・仙台育英学園高等学校模擬講義講師 (2021.11)

【その他】

- ・オンライン学習会企画運営 (2020-2021)
- ・日本教授学習心理学会編集委員会事務局 (2019-)

小川 千里 (2021年4月～2023年3月)

1. 研究 (主要なもの)

(招待講演)

・ OGAWA, O.C., (2022). 'Lifelong Education for Professionals in Japan- Case Studies on Elite Athletes and School Teachers', The Teaching and Education Summit (TESUMMIT), Learning and Education, November 9-11, Proud Pen & Acavent (Online).

・ OGAWA, O.C., (2022). '[A Solution-focused Team Meeting Method with Business Facilitation: from Japanese Educational Settings](#)', the 5th Edition of the International Academic Conference on Teaching, Learning and Education, October 21-23, Athens, Greece (Online).

(学術論文)

・ OGAWA, O.C., (2022). 'Characteristics of Coaches' Behaviour Towards an Elite Japanese Athlete Displaying Psychosomatic Movement Disorders: A Longitudinal Case Study in Elite Sports Education', Paper presented at the 4th Edition of the International Academic Conference on Teaching, Learning and Education, March 11-13, Berlin, Germany, pp.40-47.

(学会発表)

・ OGAWA, O.C., (2021). 'Longitudinal Research on the Psychological Development of Elite Japanese Athletes during Retirement', The 32nd International Congress of Psychology, July 18-23, Prague, Czech Republic.

・ 小川千里・煙山千尋・小川俊樹・中岡孝剛・重野弘三郎 (2021) .「才能教育下にあるアスリートの心理的依存と自立に関する臨床的支援 (1) —大学生アスリートらへの調査に基づく現状査定—」, 第40回日本心理臨床学会 (自主シンポジウム)、2021年9月5日。

・ 小川千里・煙山千尋 (2022) .「スポーツ才能教育下にある『純粹培養』の指導者適性に関する研究」, 第41回日本心理臨床学会、2022年9月2-25日。

・ 小川千里・山下みどり・内野博之・木嶋葉子 (2022) .「教員とスクールカウンセラーの連携にまつわるエトセトラ」, 第18回日本教育カウンセリング学会 (自主シンポジウム)、2022年10月29-30日。

(競争的資金の獲得) (延長課題を含む)

・ 2021-2024年度 科研費 (基盤 C) 「スポーツ虐待防止のための指導者の依存性への介入の方略」 (代表)

・ 2018-2021年度 科研費 (基盤 C) 「大学生アスリートの依存性からみた自立と社会的適応」 (代表)

・ 2020年10月-2021年12月 「沖縄と東北地方の教育相談に関する交流研修会: 解決志向アプローチに基づく学校教育相談の習得と実践」 三井住友信託銀行公益信託宇流麻学術研究助成基金 (代表)

(受賞) サイエンティスト・プラクティショナー賞, 日本教育カウンセリング学会, 2022年7月10日。

2. 教育

(担当授業) キャリア形成入門 (2021), 心理学 (2022), アカデミックスキル2 (2022)

3. 社会貢献 (主要なもの)

(外部委員等) A member of the scientific committee and reviewers' board, Teaching, Learning and Education Conference, 日本教育カウンセリング学会査読委員, 神戸大学大学院経営学研究科研究員

(研修実施) 沖縄と東北の教員交流 教育相談交流会 (2021年8月)

(実務経験) IKEA ジャパン株式会社 IKEA 神戸 Logistics, オリビア心理カウンセリング研究所代表

沖 和砂 (2021年4月～2023年3月)

1. 研究 ※代表的な研究のみ記載

(学会発表)

- ・ 沖和砂, 中澤謙. 体育実技におけるオンライン講義と対面講義の学習効果比較Ⅱ, 日本体育・スポーツ・健康学会第71回大会, 学校保健体育-A-08, 2021.9.7 (口頭発表).

(学術論文)

- ・ 沖和砂. 2021年度の体育実技におけるオンライン講義と対面講義の学習効果比較, 会津大学文化研究センター研究年報(28), 5-10, 2021. (2022.3発行)
- ・ 渡部琢也, 沖和砂, 中澤謙. 2021年度会津大学短期大学部運動技術履修者の体力, 会津大学短期大学部研究紀要(79), 165-170, 2022. (2022.3発行)

(競争的研究費)

- ・ The 2022 University of Aizu Competitive Research Funding “An Exploratory Study of Risk Factors Inducing Sports Injury in Disabled Alpine Skiers” (研究代表者)
- ・ 令和3年度公益財団法人福島県学術教育振興財団助成金対象事業「コロナ禍における体組成計を用いた小中学生の肥満化傾向及び筋肉量の把握」(研究分担者)

2. 教育・運営・FD活動

(担当授業)

- ・ 体育実技1(3クラス)、2(3クラス)、4(スキー) ・ 保健体育理論 ・ 卒業研究
- ・ アカデミックスキル1、2 ・ SCCP(A unique sport in Aizu)

(学内委員会)

- ・ ハラスメント防止/対策委員会(ハラスメント相談員) ・ 衛生委員会
- ・ カフェリモデルプロジェクト ・ 学生支援WG ・ 創立30周年プロジェクトチーム
- ・

3. 社会貢献

(外部委員)

- ・ 福島県スキー連盟(総務本部長/副理事長)、国民体育大会福島県選手団女性コーチ
- ・ 福島県スポーツ指導者協議会(理事・講師)
- ・ 人類働態学会(理事・事務局長)
- ・ (公財)福島県スポーツ協会リーディングコーチ養成事業(講師)、スポーツ医事/トレーニング相談事業(講師)
- ・ 勿来工業高等学校ラグビー部メンタルサポーター
※勿来工業高等学校は2022年度7人制、15人制ラグビー全国大会出場

(講演活動)

- ・ 福島県スポーツ協会の各事業 ・ 福島県スポーツ指導者協議会
- ・ 福島県会津若松市立鶴城小学校 教養講座 ・ 福島県立勿来工業高等学校ラグビー部
- ・ 令和4年度福島県学校保健会県南支部学校保健講習会
- ・ スポーツ・レクリエーション指導者養成事業「福島県スポレク・アカデミー2022」

※県内外各所において講演活動を実施

荻間澤 勇人 (2022年4月～2023年3月)

1 研究活動 (著作・出版, 論文, 学会発表)

- ・清水由佳・荻間澤勇人(2021). 紙上進路指導ケーススタディ キャリアガイダンス, Vol. 441, Vol. 442, Vol. 443, Vol. 444, Vol. 445, リクルート
- ・荻間澤勇人(2022). グループアプローチ活用のススメ 日本教育評価研究会編 指導と評価 68 (通巻 811号), pp. 31-33, (一社) 日本図書文化協会
- ・丹藤美津子・荻間澤勇人(2022). チーム支援会議にホワイトボード教育相談を位置づけた実践 2022年日本教育カウンセリング学会第19回研究発表大会発表論文集, pp. 55-56
- ・佐藤節子・鈴木英子・土屋隆子・伊藤なおみ・黒沢幸子・荻間澤勇人 (2022). 「ホワイトボードでできる解決志向のチーム会議」の可能性を探るー私たちが大事にしていることー 2022年日本教育カウンセリング学会第19回研究発表大会発表論文集, pp. 8-13

2 教育活動

- ・教育入門 ・教師入門 ・道徳教育 ・特別活動 ・生徒指導・教育相談 ・情報と職業
- ・教育実習事前事後指導 ・教育実習1・2 ・情報機器の活用に関する理論と方法
- ・教職実践演習 ・アカデミックスキル1・2

3 社会活動

(1) 会津大学公開講座

○教員派遣公開講座

- ・喜多方市立教育委員会
- ・会津若松町立小金井小学校
- ・会津坂下町立会津坂下南小学校
- ・会津美里町立高田小学校
- ・白河市教育委員会
- ・矢祭町立矢祭小学校
- ・会津坂下町立坂下中学校
- ・会津坂下町立坂下東小学校
- ・福島県教育センター
- ・白河市立釜子小学校

(2) 研究成果の還元 (研修会)

- ・岩手県一戸町教育委員会
- ・山形県教育センター (生徒指導協議会)
- ・山形市教育委員会
- ・盛岡市立黒石野中学校
- ・岩手県洋野町教育委員会
- ・山形県教育センター (5年次研修会)
- ・盛岡市立城東中学校

(3) 委員等

- ・会津若松市教育委員会 学力向上委員会 (委員長) (2016年度から)
- ・白河市いじめ対策連携協議会 (委員) (2018年度から)
- ・その他

(4) 学会活動

- ・日本教育心理学会 社員 (理事)
- ・日本特別活動学会 理事 (紀要編集委員)
- ・日本学級経営心理学会 常任理事 (査読委員, 広報委員)
- ・日本教育カウンセリング学会 常任理事 (事務局長, 査読委員)
- ・日本学校心理士会 年報査読委員
- ・日本教材学会 理事 (東北・北海道支部長)

小暮 克夫 (2021年4月～2023年3月)

1. 研究

(学術論文)

- Kogure, Katsuo and Masahiro Kubo, "Cambodian Refugees," HIAS Discussion Paper E-125, Hitotsubashi University, November 2022. (査読無)
- Kogure, Katsuo and Yoshito Takasaki, "A Comprehensive Analysis of Long-Term Impacts of COVID-19 Stay-at-Home Restrictions on Crime in Sao Paulo State, Brazil," unpublished manuscript, University of Aizu, March 2023. (査読無)
- Kogure, Katsuo and Kiyoyasu Tanaka, "Long-Term Impacts of Extreme Deprivation in Infancy, Childhood, and Adolescence," unpublished manuscript, University of Aizu, March 2023. (査読無)

(講演・口頭発表等)

- Kogure, Katsuo "Long-Term Impacts of Extreme Deprivation in Infancy, Childhood, and Adolescence," Workshop on Empirical Moral Science, Shikoku University, March 6, 2023. (査読無)
- Kogure, Katsuo, Comments on the Paper "Does the Existence of Overseas Members Make Households More Resilient against Natural Hazards? An Examination with the Post-earthquake Census Data in Nepal" by Tanaka et al., 2021 Japanese Economic Association Autumn Meeting, Osaka University (web), October 9, 2021. (討論)
- Kubo, Masahiro and Katsuo Kogure "Consequences of Cambodian Refugees," 2021 North American Summer Meeting of the Econometric Society, June 11, 2021, 2021 Asian Meeting of the Econometric Society, June 25, 2021, and 2021 Australian Meeting of the Econometric Society, July 8, 2021. (査読有)
-

(競争的研究費)

- 2020-24年度 科研費(基盤研究(C)). 「紛争と経済発展に関する実証研究」(研究代表者)
- 2018-22年度 科研費(挑戦的研究(開拓)). 「空間データと開発プログラム評価の統合」(研究分担者)
- 2018-23年度 科研費(国際共同研究強化(B)). 「熱帯雨林の保全と開発に関する学際共同研究」(研究分担者)

2. 教育・運営

(担当授業) 経済学(日本語), 経済学(英語), 経済発展論, アカデミックスキル1・2

3. 社会貢献

(出前講義)

- 「大学に必要な読解力・論理的思考力・記述力について」福島県立会津学鳳高等学校(1年生), 2021年12月20日.

(外部委員)

- 日本貿易振興機構(JETRO)アジア経済研究所(研究会委員)(2020-22年度), 一橋大学経済研究所(非常勤研究員)(2021-22年度), 国際協力機構(JICA)(アドバイザー)(2022年度), 会津若松地方広域市町村圏整備組合情報公開等審査会委員(委員)(2020-22年度)

清野 正哉 (2022年4月～2023年3月)

1. 研究活動等

・外部シンクタンクより、以下の内容のeラーニング講座の教育コンテンツの制作・監修し、2022年8月より配信開始。

「未来の教室をつくる GIGA スクール行政」, 「大学における研究データポリシーの策定」,

「大学における著作権対策と大学のオンライン講義」, 「地方自治体の情報政策研修」

また、「行政のデジタル化と教育現場の DX～デジタル田園都市構想とギガスクール構想の理想と現実」について講演(2022年11月)

・「どう守る？私たちの個人情報」のテーマのシンポジウム(会津若松市主催)で講演等(2023年2月8日)

2. 担当授業科目・学内委員会・公開講座等

(担当授業科目)

・コンピュータ理工学部 専門教育「情報倫理」、
教養教育「日本国憲法」、「法学」

SCCP 公務員・教員試験対策講座・ベンチャー/コンテンツビジネス(今年度休止)

(学内委員会)

・図書委員会

(公開講座・教員派遣講座等での担当可能テーマ)

「AI の法律・倫理問題」、「安心・安全のための情報の取り方」、「学校教育における情報モラル」、「クラウドコンピューティングの法律問題」、「ソーシャルメディアと企業経営」、「ソーシャルメディアなどのインターネット及びスマートフォンの利用におけるトラブル・法律問題とその解決講座」、「地域活性化のための方法論」、「企業経営や事業化のための資金調達の方法論」

2-2 学外 担当授業科目

竹田看護専門学校 「看護と法」

3. 教育実践・地域貢献活動

・県内中小企業及び県外企業、NPO 法人、市町村からの相談多数 (相談内容の例 技術評価・技術マッチング、知的財産管理、著作権、商標・意匠事業、個人情報管理、企業経営戦略、資金調達、社内人材育成、ソーシャルメディア事業、新規事業戦略・方法、再生エネルギー事業、法令解釈 子ども子育て関係) (学外委員等)

・会津若松市行政不服審査会 会長

・会津若松市情報公開及び個人情報保護審査会 会長

・会津若松市子ども子育て会議 会長

・福島県後期高齢者医療広域連合情報公開・個人情報保護審査会 委員

・下郷町情報公開審査会 会長

・宮城県行政書士会会員 (登録のみ)

4. その他

・特許権 4747250 号(代理人端末装置及び代理人端末装置の制御プログラム 2012年5月27日登録)更新中

中澤 謙 (2021年4月～2023年3月)

1. 研究

(競争的研究費)

- ・ 2022年度科学研究費補助金(基盤研究C) 保育者としての成長過程に沿ったVR-Learning教材の開発(研究代表者)

(研究発表)

- ・ 中澤謙, 久田泰広, 渡部琢哉, 西原康行(2023) VRを用いて代替可能な保育観察力形成要素の検討. 日本教育工学会 春季全国大会. 59-60
- ・ 日本教育工学会 2023年春季全国大会(第42回大会) 一般研究発表1 教師教育(1) 座長

2. 教育・学内運営

(担当授業)

- ・ 体育実技1(C2, C3, C5)、体育実技2(C1, C3, C5)、体育実技4(水泳)
- ・ 保健体育理論、アカデミックスキル1、アカデミックスキル2
- ・ 卒業研究
- ・ SCCP(Human Body Motion Analysis Project)
- ・ 運動と健康(短期大学部)

(学内委員会)

- ・ 情報センター運営委員会
- ・ 情報センター運用管理業務委託ワーキンググループ
- ・ カリキュラムワーキンググループ
- ・ 他

3. 社会貢献

- ・ 福島県スポーツ振興基金(理事)
- ・ 福島県スポーツ医・科学委員会(委員)
- ・ (公財)日本水泳連盟学生委員会北部支部(支部長)
- ・ 東北水泳連合(理事)
- ・ 東北地区大学体育連盟(評議員)

(大会運営)

- ・ 北部地区大学選手権水泳競技大会(郡山しんきんプール 主管校・会津大学)
- ・ 全国国公立大学選手権水泳競技大会(金沢プール・上訴審判)
- ・ 全日本学生選手権水泳競技大会(東京辰巳国際水泳場・上訴審判)

執筆者一覧（五十音順）

網谷 祐一 (A)	会津大学上級准教授（哲学・科学史）
池本 淳一 (A)	会津大学上級准教授（社会学）
蛭名 正司 (P)(A)	会津大学上級准教授（教育心理学）
小川 千里 (A)	会津大学上級准教授（経営学）
沖 和砂 (P)(A)	会津大学准教授（スポーツ健康科学）
荻間澤 勇人 (PF)(A)	会津大学教授（教育学）
小暮 克夫 (A)	会津大学上級准教授（経済学）
清野 正哉 (A)	会津大学上級准教授（法学・情報倫理）
中澤 謙 (A)	会津大学教授（保健学）

※ (PF)巻頭言 (P)論文 (A)活動報告

会津大学文化研究センター研究年報 第29号 2022

2023年 3月 31日 発行

発行 会津大学
郵便番号 965-8580
福島県会津若松市一箕町鶴賀
Fax 0242(37)2751
編集 会津大学文化研究センター

